

科目名	スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。

（総合）は、スペイン語の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。

講義概要

教科書「オーラ・アミーゴス」および担当者の指定する教科書にそって、初級文法を半分まで進む。主な文法項目は、名詞と形容詞、冠詞、基本動詞の使い方、動詞直説法現在形の活用、点過去の活用である。

テキスト

担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）および、「オーラ・アミーゴス」（芸林書房）

参考文献

スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。
辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。
担当者によっては、小テストを行う場合がある。

科目名	スペイン語（入門・会話）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。

（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語（総合）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。

（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

講義概要

（入門）では、映像・音楽なども使いながら、簡単なスペイン語史、スペイン語圏の地理・歴史・文化に関するスペイン語の基礎用語を学ぶ。また同時に、（総合）の補いとして、基礎語彙の習得、基本構文の練習を担当者の用意するプリント・ビデオ教材などを使って行う。また、総合の進度にあわせて、確認の小テストをおこなう予定である。（会話）では、語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使って、会話練習をおこなう。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。

参考文献

スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。

辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（入門・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が 60 点未満の場合には、（入門・会話）二単位の評価は、不可となるので注意のこと。

科目名	中国語 ・ (総合)
担当者	各担当教員

10回	15～19課復習テスト 第20課
11回	テスト答案返却と問題解説 後期のまとめ
12回	後期のまとめ、補充教材

講義の目標

文法・読解・作文のクラスです。正しく読み書きができるよう、中国語の基礎を固めていきます。発音記号、基本文型、日常のあいさつの修得をめざします。

講義概要

中国語 が前期、中国語 が後期にあたります。この授業は日本人教員が週一回、2 時限連続で担当します。まずそれぞれの語（漢字）を構成する要素である発音（「ピンイン」：ローマ字発音記号）、声調（「四声」：意味を弁別する上で必要な四つの高低トーン）、文字の形（「簡体字」：中国大陸で用いる簡易化された文字）、意味（同じ漢字を使っているでも日本語とは異なる内容）を学びます。

テキスト

『中文課本 基礎編』金星堂（前期・後期共通）

参考文献

辞書 小学館『中日辞典』 大修館書店『中国語学習ハンドブック』

評価方法

授業への貢献度（出席率、積極性、課題への取り組み）、小テスト成績および定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が 60 点以上で単位取得となります。

受講者への要望

遅刻、欠席は厳禁です。15 分以上の遅刻は欠席とみなし、三分の一以上の欠席で不合格になります。また、復習小テストで不正解だった問題については再度確認し、確実に身に付けてください。

年間計画

中国語 総合（前期）

1回～2回 ガイダンス、発音記号と発音

3回～6回 第1課～4課 朗読練習、文法の解説、語の用法

7回 1～4課復習テスト 第5課

8回 テスト答案返却と問題解説 第6課

9回～12回 第7課～第10課、前期のまとめ

中国語 総合（後期）

1回～4回 第11課～第14課

5回 11～14課復習テスト 第15課

6回 テスト答案返却と問題解説 第16課

7回～9回 第17～19課

科目名	中国語 ・ （会話）
担当者	各担当教員

講義の目標

実用的な短い対話を通して話す力と聞く力を身に付けるクラスです。発音の徹底指導と聞き取り訓練を中心に、ペアワークなどを通じて音声言語の運用能力を身につけることを目指します。

講義概要

中国語 入門・会話が前期、中国語 基礎表現・会話が後期になります。この授業は中国人教員による指導とし、週一回、2 時限連続で学習します。

テキスト

前期：『12 回で学ぶ中国語（ ）』白帝社

後期：『12 回で学ぶ中国語（ ）』白帝社

参考文献

辞書 小学館『中日辞典』 大修館書店『中国語学習ハンドブック』

評価方法

授業への貢献度（出席率、積極性、課題への取り組み）、小テスト成績および定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が 60 点以上で単位取得となります。

受講者への要望

授業には積極的に参加し、大きな声で話すようにしてください。教員は全て標準的な美しい中国語を話すネイティブ・スピーカーですので、美しい発音、めりはりのある話しかた、適切な速度、豊かな表現力などを吸収するよう努めてください。

年間計画

中国語 入門・会話（前期）

1 回～2 回 第 1 課～第 3 課 発音練習

3 回～6 回 第 4 課～第 7 課

7 回 個別発音チェック、第 1 課～第 7 課の聞き取りテスト、第 8 課

8 回～11 回 第 9 課～第 12 課

12 回 第 9 課～第 12 課の聞き取りテスト、前期のまとめ

中国語 基礎表現・会話（後期）

1 回～6 回 第 1 課～第 6 課

7 回 第 1 課～第 6 課の聞き取りテスト、第 7 課

8 回～11 回 第 8 課～第 12 課

12 回 第 7 課～第 12 課の聞き取りテスト、後期のまとめ

科目名	スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

(総合)は、スペイン語の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。

講義概要

教科書「オーラ・アミーゴス」および担当者の指定する教科書にそって、初級スペイン語文法を終える。主な文法項目は、点過去、線過去、完了形、接続法の活用と使い方である。

テキスト

担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）および、「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。

科目名	スペイン語（基礎表現・会話）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

（基礎表現）では、（総合）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。

（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

講義概要

（基礎表現・会話）:（基礎表現）は、（入門）の続きの授業である。（総合）の補いとして、基礎語彙の習得（2000語＋）、基礎構文の練習を、（入門）に引き続いて担当者が用意するプリント・ビデオ教材などを使って行う。また、簡単な解説文、物語を読むことで、読解力獲得の第一歩とする。また、総合の進度にあわせて確認テストをおこなう予定である。

（会話）では、基礎語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使った会話練習をおこない、能動的な聞く能力、話す能力の拡大を目指す。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（基礎表現・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が60点未満の場合には、（基礎表現・会話）二単位の評価は、Dとなるので注意のこと。

科目名	スペイン語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。

講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。

講義概要

担当者が指定する中級用の教材を用いて、その文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。

講読の授業では、教科書用書き直された、平易なスペイン語の物語、評論などを中心に輪読する。この授業では特に予習が不可欠である。

テキスト

総合：担当者指定の教科書 4月に教科書売場で確認の上購入のこと。

講読：担当者指定の教材 プリントなど。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。総合・講読それぞれの担当者のうち、いづれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	スペイン語（会話・LL）
担当者	各担当教員

講義の目標

（会話）の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。

（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。

講義概要

（会話）の授業では、中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。

（LL）の授業では、Viaje al español などを用いて進めていく。場面設定にあわせた聞き取り能力、受け答えを練習する。

テキスト

会話：担当者指定の教材

LL：プリントを用意する。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いずれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	中国語 ・ （総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

講読を中心に学び、中国語の様々な表現法にふれるクラスです。このクラスでは語彙力の増強、文の構造、中国語独特の表現法について理解を深めることを目指します。また、慣用句や成語の用法についても学んでいきます。

講義概要

中国語 が前期、中国語 が後期になります。日本人教員が週一回、2 時限連続で担当します。主に講読と語の用法を中心に学びます。後期の最後には担当教員が最近の新聞記事やエッセイなどから補充教材を用意し、辞書をひきながら解釈し、自然な日本語への翻訳を行なっていきます。

テキスト

『中文課本 応用編』金星堂

参考文献

辞書 小学館『中日辞典』 大修館書店『中国語学習ハンドブック』

評価方法

授業への貢献度（出席率、積極性、課題への取り組み）、小テスト成績および定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が 60 点以上で単位取得となります。

受講者への要望

長文を読みこなす能力を身に付けるため、参考書や辞書を積極的に利用するよう心がけてください。予習・復習は必須です。

年間計画

中国語 総合（前期）

1 回 ガイダンス 第 1 課

2 回～6 回 第 1 課～第 5 課

7 回 復習テスト 第 6 課

8 回～12 回 第 6 課～第 10 課

中国語 総合（後期）

1 回～6 回 第 11 課～第 16 課

7 回 復習テスト 補充教材

8 回～12 回 補充教材

科目名	中国語 ・ （会話）
担当者	徐 承 偉

講義の目標

中国語で聞く、話す能力をつけるクラスです。自ら発信し、相手のメッセージをとらえるコミュニケーション能力を強化することが目標です。

講義概要

中国語 会話が前期に、中国語 会話が後期になります。会話 LL と同じ教科書を使いますが、主に語句の応用練習と自由会話の練習を行い、コミュニケーション能力の強化をはかります。中国人教員が担当し、授業は全て中国語だけで行います。

テキスト

『中国語実習コース』白水社

参考文献

辞書 小学館『中日辞典』 大修館書店『中国語学習ハンドブック』

評価方法

授業への貢献度（出席率、積極性、課題への取り組み）、小テスト成績および定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が 60 点以上で単位取得となります。

受講者への要望

文法的な間違いや多少の発音ミスは気にせずに積極的に発言してください。自分の持っている語学力を最大限に発揮して、相手とコミュニケーションしようとする姿勢が重要です。

年間計画

中国語 会話（前期）

1 回 ガイダンス 第 1 課

2 回～6 回 第 1 課～第 5 課

7 回 復習テスト 第 6 課

8 回～12 回 第 6 課～第 10 課

中国語 会話（後期）

1 回～6 回 第 11 課～第 15 課

7 回 11～15 課復習テスト 第 16 課

8 回～12 回 第 16 課～第 20 課

科目名	中国語 ・ （会話）
担当者	永田小絵

講義の目標

自然な速度の中国語がなめらかに口をついて出てくる能力を養うことが目標です。通訳訓練手法を導入することにより聞く力と話す力を強化し、さらに中国語のニュアンスを的確に捉える能力を養います。

講義概要

中国語 会話 LL が前期に、中国語 会話 LL が後期になります。語彙力増強のため毎回単語テストを行います。教科書の本文を教材とします。LL 装置を用いてチャンキング、リピーティング、シャドーイング、中日通訳などの手法で訓練を行っていきます。

テキスト

『中国語実習コース』白水社 単語プリント

参考文献

辞書 小学館『中日辞典』 大修館書店『中国語学習ハンドブック』

評価方法

授業への貢献度（出席率、積極性、課題への取り組み）、小テスト成績および定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が 60 点以上で単位取得となります。

受講者への要望

LL 装置を用いた訓練になりますので、個別に指導する機会があまり多くありません。したがって、授業に積極的に参加する自覚を持って取り組んでください。また、毎回の授業を録音するために空のテープを持参して出席してください。

年間計画

テキスト 『中国語実習コース』白水社 単語プリント

中国語 会話 LL（前期）

- 1回 ガイダンス 第1課
- 2回～6回 第1課～第5課
- 7回 復習テスト 第6課
- 8回～12回 第6課～第10課

中国語 会話 LL（後期）

- 1回～5回 第11課～第15課
- 7回 11課～15課復習テスト 第16課
- 8回～12回 第16課～第20課

科目名	スペイン語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

総合の授業では、より高度な文法事項とともによく使われる言い回しを扱い、表現力の増強を目的とする。冠詞、形容詞、再帰動詞、二つの過去形、接続法、関係詞など既出の文法事項についても補いの説明をし、中級文法を終える。

講読の授業では、スペイン語圏で通常読まれている物語・小説、評論、新聞記事などを用いて、読解力の養成を行うとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。

講義概要

総合の授業では、中級用の教材を用いてその文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。

講読の授業では、平易ではあるがスペイン語圏で普通に読まれている物語、評論などを輪読する。

テキスト

総合：担当者指定の教科書 前期と同じ教材を用いる。

講読：担当者指定の教材 プリントを用意する予定である。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いづれかが 60 点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	スペイン語（会話・LL）
担当者	各担当教員

講義の目標

（会話）の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。

（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、に引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。

講義概要

（会話）の授業では、中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、論議を定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。

（LL）の授業では、Viaje al español などを用いて進めていく。

テキスト

会話：担当者指定の教材

LL：プリントを用意する。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いずれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	英語 (Advanced)
担当者	E.J.ナオウミ

講義の目標

Students often express the desire to be able to express their opinions better. Discussion in any language requires confidence as well as advanced language skills. English is no exception. During this course students will discuss a variety of topics and develop confidence in leading discussions.

講義概要

The first semester will look at some of the skills required in discussion and how to present a topic clearly. We will look at a variety of issues, such as news topics, sports, movies, environmental issues and advertising to develop a broader vocabulary base. Students will be expected to gather information about the topics in order to have more informed opinions. The second semester will be more student centered and students will bring in their own topics to class.

テキスト

Prints and articles

参考文献

A good learner's dictionary or monolingual English dictionary

評価方法

[前期]

Classwork and a final oral interview in pairs

[後期]

Classwork and a final oral interview

年間授業計画

【前期授業計画】

- 1 . Ice breaking activities
- 2 . Introduction to the news
- 3 . This week's topic in the news.
- 4 . How green are you?
- 5 . Environmental topic
- 6 . Introduction to Movies
- 7 . Different types of movies
- 8 . Advertising
- 9 . Advertising
- 10 . Sports
- 11 . Sports
- 12 . Travel- Cultural Taboos

【後期授業計画】

- 1 . Revision and assignment of topics
- 2 . How much news have you been following?
- 3 . Student Topics
- 4 . Student Topics
- 5 . Student Topics
- 6 . Student Topics
- 7 . Student Topics
- 8 . Workshop
- 9 . Student Topics
- 10 . Student Topics
- 11 . Student Topics
- 12 . Preparation for the final interview

The topics may change according to student interest.

科目名	英語 (Advanced)
担当者	P . アップス

講義の目標

The aim of this course is to encourage the students to communicate using English in the classroom and eventually outside the classroom. The students will participate in structured group work and pairwork. It is hoped that through participating in these exercises the students will develop confidence in communicating in English. Finally the students will given time in class to talk to the teacher in small groups and they will be encouraged to take full advantage of this experience.

講義概要

The communicative approach

テキスト

“Explorations” by Linda Lee and Terra Brockman
Publisher- Oxford University Press

評価方法

- 1) There will be an interview test at the end of each term.
- 2) Attendance and class participation will be evaluated.
- 3) Evaluation of the assignments.

受講者への要望

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

年間授業計画

At the beginning of the Year the students can select the sequence in which they would like to study the chapters of the book.

科目名	スペイン語
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

新聞記事、雑誌記事・論文、評論、小説などスペイン語圏で通常流通している書かれた文章の内容把握およびテレビニュースなどの聞き取りをおこない、内容を日本語とスペイン語で要約する力を養成することが第一の目的である。さらに内容に関して、自分の意見をスペイン語で表現できる能力の養成にもつとめたい。

講義概要

日本人担当者は、主に講読を担当する。内容把握は、その背景を知ることが不可欠である。正しい内容把握ができるよう、語彙、構文に関する説明だけではなく、その背景についても受講生自ら調べるよう指導したい。なるべく多様な分野に関する教材を用意し、精読するだけでなく、長文の概要把握にも挑戦させる。外国人担当者は、できるだけスペイン語のみで授業をおこなう。担当講師の用意する教材に基づいて、内容把握だけでなく、内容に関する意見表明、論議をスペイン語で行わせたい。

今年度から、クラス指定をはずし受講者によるクラス選択を可能としている。スペイン語学習に関する各人の目的にあわせて授業を選択してもらいたい。各クラスには、それぞれ特徴をもうけた。商業文作成の練習をおこなう予定の担当者（ホソノ）もいる。なお、教員は変更になる場合がある。

前期三クラス：日本人教員（佐藤、週二回）の購読クラス、外国人教員二人（ホソノ、ノセッティ）による会話クラス、日本人教員（兒島）と外国人教員（ウエチ）による購読と会話の組み合わせクラス

後期三クラス：外国人教員（ノセッティ、週二回）による会話クラス、外国人教員二人（ホソノ、ノセッティ）による会話クラス、日本人教員（兒島）と外国人教員（ウエチ）による購読と会話の組み合わせクラス

各クラスともおおむね 30 人の人数制限を行う予定なので、最初の時間に必ず出席し履修登録の意志を伝え、承認してもらうことが必要である。

テキスト

各担当者が指定する教材あるいはプリントを用意する。

参考文献

各担当者が指示する。

評価方法

平常点のほか、小テストおよび期末テストで総合的に評価する。担当者二人で一つの成績をだすことになる。いずれかの担当者の評価が 60 点以下の場合、成績は D となる。

受講者への要望

授業での積極的発表、発言が重要である。各時間を有意義に使っていただきたい。

科目名	中国語（総合）
担当者	各担当者教員

講義概要

中国社会・文化に関する中国語資料を使い、辻は精読、武信は応用作文を指導する。

テキスト

教材配布

参考文献

天児慧『中華人民共和国史』岩波書店

評価方法

期末テスト

学生への要望

予習を重視し、複数の辞書・参考資料を利用する。

年間授業計画

進捗状況によって決定する。

科目名	中国語（会話）
担当者	徐 承 偉

講義の目標

(1)《汉语水平等级标准与语法大纲》提出：高级阶段的学生应该“能够就学习和社会生活的各种话题进行课堂讨论和辩论，能较有系统、教完整地发表自己的见解，并能进行答辩，能进行大段表达。”为达到提纲的要求，希望通过本课程学习，使学生能准确应用汉语表情达意，自然、通顺、流畅地与人沟通，较系统阐述自己的观点。

(2)语言与文化相结合，把语言表达训练融化在文化内容中，第一学期重点训练阐述自己观点的能力，第二学期重点训练讨论、辩论的能力。

講義の概要

把中国文化知识作为语言的载体，文化内容选择力求点面结合，古今兼顾，雅俗共存，不求文化的系统、完整。注重文化的民族代表性和地方独特性，并注意中外不同文化的对。

テキスト

未定，开课后再指定。

参考文献

《现代汉语八百词》吕叔湘主编，商务印书馆出版
《口语习用语词典》常玉钟主编，北京语言文化大学出版社
《现代汉语应用词典》商务印书馆辞书研究中心编，商务印书馆出版

評価方法

四部分：

学期总成绩=（平时开口率+平时出勤率）10%+期中考试总成绩30%+期末考试成绩60%

受講者への要望

积极参与，大胆发言，不怕说错，认真准备，作好预习复习，认真对待作业，背诵课文，做到真正学有所得，每天所学内容，自己要找机会在实际生活中，建立同学伙伴关系，每天抽时间用汉语对话。

年間計画

4月-7月第一学期，计划每周上一节，共完成12课，分三个单元，进行三次测验，测验范围为课堂所学内容。

第二学期，计划每周上一节，共完成12课，布置话题，组织辩论会等，具体情况待课本选定后决定。

科目名	ボランティア論
担当者	辻 康吾 / 川野 祐二

講義の目標

この授業は、利益を目的とせず、しかも政府ではない組織、すなわち非営利組織（NPO）・ボランティア組織について学ぶ。具体的には、ボランティアは社会にとってどのような存在であるか、ボランティア組織はどのような組織なのか、という点についてである。

では、社会にはさまざまな価値観や目的を持った個人や集団がいることを知る。そのうえで、社会正義の不確実性と実現の困難さを論ずる。では、ボランティア組織が目的を達成するためには、いかなる人間関係を築き、また組織運営をすればよいのかを考える。

講義概要

ボランティア組織は、豊かな社会を実現するために重要な役割を果たしている。ボランティア組織が活躍するに至った社会的背景を講義しつつ、様々なボランティア組織を紹介する。

またボランティア組織のマネジメントに焦点を絞り、その心性（ボランタリズム）、とりわけボランティアの人々が活動に参加する際に抱くとされる動機や利他性・無償性・自発性といった側面を考える。そのうえで、ボランティアの理想と現実、または自身の感覚に照らし合わせての考察を行ってもらおう。

授業ではゲストによる講義がある。また、ビデオを豊富に用いる。

受講者への要望

考えなければ学べない授業と心得て下さい。ノートをしっかり取ること。

年間授業計画

1. ボランティアとは何か
2. 資本主義経済システムと NPO・NGO
3. 被害者運動と公害
4. 科学者・技術者からの視点
5. 市民参加と政策決定
6. 環境 NPO の台頭
7. 福祉ボランティアの必要性
8. 教育分野でのボランティア活動
9. フィランソロピーとボランティア助成
10. ボランティアモチベーション
11. 官僚制組織への成長
12. ボランティアにおけるリーダーシップ

科目名	現代世界論
担当者	有吉 広介

講義の目標

21世紀の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。この講義では経済学部桑原靖夫・千代浦昌道の2教授、外国語学部英語学科の鍋倉健悦教授、および同学部言語文化学科の有吉広介、辻康吾の2教授と佐藤勸治助教授がオムニバス形式で、それぞれ異なる視点から世界の諸現象を講義し、現代世界の多面的な理解をはかる。

講義概要

まず、文化的背景を異にする人間同志の間で起こりえる、さまざまな事柄について、異文化コミュニケーションの視点から話す。次に労働市場のボーダーレス現象の一つ、いわゆる「外国人労働者」の問題にふれる。ついで、国際社会の古くて新しい問題である「南北問題」を現代のメキシコ社会にみる。さらに奴隷貿易、植民地支配、そして内戦や紛争に苦しんできたアフリカ人の歴史とアフリカの政治・経済・社会の現状を論じる。ついで、改革開放政策や経済建設で大成功を収めた中国が、今後の国際関係において、特に対日関係において行使する影響力を分析・検討する。最後に、人口の高齢化状況に関連して、いくつかの国における高齢者の生活および意識と、その文化との関係を比較検討する。

テキスト

随時資料を配布する。

参考文献

桑原靖夫「国境を越える労働者」(岩波書店)、同著「あなたの隣人外国人労働者」(東洋経済新報社)、「グローバル時代の外国人労働者」(東洋経済新報社)など。講義時に紹介するものがある。

アフリカ論に関しては、小田英郎他著「アフリカ第2版」(国際ベーシックシリーズ、自由国民社、1999)および伊谷純一郎・織田英郎・田中二郎・米山俊直共同監修「アフリカを知る事典 改訂版」(平凡社1999)

中国論を聞くに当たっては天児慧「中華人民共和国史」を通読しておくこと。

評価方法

前後6回のレポートの総合評価

学生への要望

多面的にサブ・テーマを設定したので、必ず出席

し、講義の要点をよく把握すること。

年間授業計画

- 海外旅行やインターネットが急速に普及する21世紀、異文化理解の必要性が高まります。そこで異文化間コミュニケーションにある諸問題を取りあげます。
- 使用言語が異なれば、言語・思考も違ってくる。ここにいわゆる「言語相対性の原理」がある。これを日英語と英語の比較から考えてみたい。
- グローバルな世界経済の下、労働力は国境を越えて移動する。しかし不法入国者の急増と定着、経済危機下に強制送還される労働者、母国に戻れない労働者など新たな問題が生まれる。
- 21世紀に向けて日本は、アジアや南米諸国との関係でいかなる立場に立ち、そして多様化する国際労働力移動の流れにいかに対応すべきなのかを、世界の潮流に即して理解したい。
- 観光、組み立て産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコの国境都市・ティファナに、先進国・アメリカ合衆国と発展途上国・メキシコの文化交流の歴史をみる。
- 合衆国の圧倒的な影響の下にメキシコ北部においていかにメキシコ性が形成されてきたかという問題を歴史的に追う。
- 現代アフリカの政治

長年にわたるヨーロッパ諸国の植民地から脱して第2次大戦後に独立を果たしたアフリカ諸国が、その後どのような政治的変遷をたどったか、それに関連して頻発するアフリカ諸国の内戦や紛争の原因・結果などについても講義する。そうした旧植民地アフリカ諸国とは別に、アパルトヘイトの白人支配に苦しめられた南ア共和国の黒人住民たちが、いかにして民主化を勝ち取ったかについても述べる。
- 現代アフリカの経済と社会

現代アフリカの経済と社会は、近世における奴隷貿易史、さらに近代ヨーロッパ諸国のアフリカ大陸植民地化の歴史と切り離して論ずることはできない。これらの歴史的背景に触れた後に、独立後のアフリカ諸国の経済と社会の変遷とさまざまな問題について講義する。特に、1980年代以降のアフリカの構造調整問題についても詳しく述べる。
- 1980年以降、急速な近代化を進める中国の経済的成功は世界の注目を集めている。その中国の前途を内政・外交の両面から分析、評価する。第1回は近代化政策の必然性とその展開過程について紹介する。

10. 近代化とともに中国国内情勢は大きく変動し、対外関係でも大幅な調整が続いている。
その中国の内外情勢を構造的にとらえ、評価を下したい。
11. 高齢者の生活と意識に関して総務庁が国際比較調査を 4 回おこなった。この調査の結果を中心に日本、アジア諸国、そして欧米諸国の高齢者の生活と意識の特徴を比較する。
12. 日本、アジア諸国、そして欧米諸国の間にある高齢者の生活と意識の違いがそれぞれの文化と深く関係することを説明する。

科目名	言語文化概論
担当者	下川 浩

講義の目標

外国語学部共通の教育目標は、特定の外国語の学習を通じて、そ（れら）の外国語の話される共同体の文化と社会構造を、日本語および日本の文化・社会構造と対照しつつ、知ることである。その際、言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式とは相互に密接な関係にあるということが、自明のこととして前提とされている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化の相互関係を概括的に論じることである。

講義概要

言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式との相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手・主体である民族を中心にすえる必要がある。けれども、同じ（ような）言語を話し、同じような生活を営み、同じように行動し、思考する人々を民族ということについては、今日、事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成される。しかし、生活環境の変化により移動を余儀なくされ、移動がかなわぬようになったのちには、たがいの生活領域と手段を奪い合うことによって、今日のように民族・言語・文化が多様化したのである。民族紛争・国際紛争を言語と文化の側面から見ていく。

テキスト

なし。要旨を獨協大学ホームページ・授業のページに掲載。

参考文献

- 高崎通浩『改訂版世界の民族地図』（作品社）
 マイクロソフト『エンカルタ百科事典 2000』
 日立デジタル平凡社『世界大百科事典』
 マクミラン『エンサイクロペディア・オブ・ワールド・カルチャーズ』
 小学館『日本大百科全書』
 コムリー他編『世界言語文化地図』（東洋書林）
 R.E.アシャー他編『世界民族言語地図』（東洋書林）
 恵谷 治『世界危険情報大地図館』（小学館）
 下川 浩『現代日本語構文法』（三省堂）ほか

評価方法

随時レポートを課し、各自の実績にもとづく自己評価を基本にしたい。

受講者への要望

「講義という形をとった伝え合いを通じ、話し合いのしかたが学べるように、積極的に質問や意見発表をしてもらいたい。

年間授業計画

1. 人と人が出合うとき、ふれ合いと伝え合いが起こる。伝え合い（コミュニケーション）とはどういうものか。
2. 伝え合いにはコトバによるものとよらないものがある。コトバによる伝え合いはコトバによらない伝え合いとどう違うのか？
3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどういうものか？
4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？
5. 人種・語族・民族という概念の共通点と相違は？
6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？
7. 文化はどのように形成されてきたか？日本文化とは？
8. 宗教はどのように人々の生活・行動様式と関係し合うのか？
9. 「民族紛争」と「少数民族」の問題をどのように考えるべきか？
10. 平和で豊かな国際社会を築くための伝え合いと関わり合いとは？
11. コトバは事柄をありのままに表現することができない。ウソとコトバの魔術の違いとは？
12. ふれ合い（社会的相互行為）と伝え合いの原則とは？

（以上は予定であるから、講義の展開により、多少のズレ・変更がありうる。）

科目名	比較思想概論
担当者	松丸 壽雄

講義の目標

日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。

講義概要

東洋思想と西洋思想とを比較検討する。東洋思想としては、インドのウパニシャッド哲学、ジャイナ教思想、仏教思想、中国の易経などの古代思想、儒教（朱子学等の宋学も含む）、日本では神道、儒学思想、国学思想、日本近代の哲学思想を概観する。西洋思想としては、キリスト教思想（イスラム思想にも触れる）、ドイツ観念論、実存思想、フランスの現象学的思想などに触れる。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

レポートの内容により評価。受講者が多数の場合は筆記試験。

受講者への要望

講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。授業内容については変更もありうる。

年間授業計画

1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。
2. 比較思想の歴史と方法（1）
3. 比較思想の歴史と方法（2）
4. インドの思想（1）
5. インドの思想（2）
6. 中国の思想（1）
7. 中国の思想（2）
8. 日本の思想（1）
9. 日本の思想（2）
10. 西洋思想（1）
11. 西洋思想（2）
12. 東洋思想と西洋思想の比較・検討。

科目名	日本文化論
担当者	小島幸枝

講義の目標

日本文化の諸様相とその特質、および問題点を 16、7 世紀（大航海時代）のキリシタン資料の実証的研究を通じて明らかにしたい。従ってヨーロッパ文化との比較研究の特徴をもつ。

講義概要

大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時の日本の政治状況、経済状態、文化、思想、宗教、生活、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と（時には古代日本にも目を向けながら）比較して日本文化の特質を確認していきたい。ビデオテープ（45 分もの）を援用する。

テキスト

日本史小百科『キリシタン』（東京堂出版）

参考文献

大航海時代叢書（岩波書店）
 フロイス『日本史』全 12 巻（中央公論）
 フロイス『日本史』全 5 巻（東洋文庫）平凡社
 『探訪 大航海時代の日本』全 8 巻（小学館）

評価方法

レポート

受講者への要望

出席を重視する

年間授業計画

1. 日本の特徴と日本文化（地理的環境と日本民族）
2. 日本の歴史（外来文化との接触交流面からみた）
3. 大航海時代 1 - イエズス会来日と日本研究に至るまで
4. 大航海時代 2 - イエズス会の日本研究
5. 大航海時代 3 - その文献資料の様相
6. 日本人男性の風貌と衣服について
7. 日本人女性の風貌と衣服について
8. 日本人の食事と飲酒の作法
9. 日本の宗教（坊主、ならびにその風習、葬礼、寺院、その宗派の信仰について）
10. (ビデオ鑑賞) - 永平寺の修行
11. (ビデオ鑑賞) - 比叡山千日回峰
12. 日本の病気、医者、および薬について
13. 日本の劇、舞踊、歌、および楽器について
14. ビデオ鑑賞 - 能
15. ビデオ鑑賞 - 狂言

16. 日本語 - 書記言語としての往来物
17. 日本語 - 口頭言語としての敬語法
18. 国の成立（神話にみる日本誕生）
19. 日本の国土
20. 日本人の習慣と価値観
21. 日本人の習慣と価値観
22. 日本の家屋 - (ビデオ鑑賞) 合掌造の屋根葺かえ
23. 日本人の死生観
24. 日本の心の美学（ビデオ鑑賞）忠臣蔵

科目名	日本語研究概論
担当者	城田 俊

講義の目標

新しい日本語学は言語学の基礎の上に構築する必要がある。講義では言語学の初歩的知識をやさしく説明し、それを出発点にして日本語を眺めると、音声、文法、語彙の水準においてどのような構造・組織・体系が見出されるかを綿密にとく。

講義概要

新しい言語学の出発点となったソシュールの学説を紹介し、それを発展させていったトルベッコイ、ヤコブソン等々の理論を解説する。「構造」の概念の理解のために重要な音韻論の基礎知識を伝え、その上で日本語の子音体系、母音体系を解明し、基本体系と第二体系の差を説明する。言語（ひいては日本語）がなぜ変化するのか、駆動力は何かを考察する。文法論の分野では文法カテゴリーの言語学的定義を把握し、日本語にはいかなるカテゴリーが存在し、いかなる形態によって表現されているかを観察する。意味論、語彙論の分野では語彙函数の理論を説明し、日本語のコローション面に注意を払い、語彙力・文章力の涵養に努める。

テキスト

必要な場合プリントして配布する。

参考文献

トルベッコイ 『音韻論の原理』（長嶋 善郎 訳・岩波書店）

『ロマン・ヤコブソン選集』1・2（大修館書店）

城田 俊 『日本語の音』（ひつじ書房）

城田 俊 『日本語形態論』（ひつじ書房）

城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』（リベルタ出版）

評価方法

定期試験期間中に試験を行う。

出席および授業への参加態度を考慮する。

受講者への要望

シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。授業中受講者に質問することがある。授業への積極的参加が望まれる。

年間授業計画

（前期）

1. コードとメッセージ、ラングとパロルの区別。コ

ードとメッセージの諸関係。引用、固有名詞、語釈話法、人称代名詞。

2. 通時言語学と共時言語学。通時的日本語研究と共時的日本語研究。共時的日本語研究の優位性。共時態から通時態へ。

3. /a/の前にある日本語の子音、子音組織の解明方法。調音点、調音方法、無声性（清音）、有声性（濁音）、非口蓋化性（直音）、口蓋化性（拗音）等の理解。

4. /a/の前の子音の体系の分析。音素とは弁別的特徴の束である。ヒュームの人間の定義(a man is a bundle of a different perceptions)との相似。

5. 子音音素認定の手続き。子音音素体系。/e/の前にある日本語の子音。「中和」、archiphoneme（原音素）とは何か。音素から弁別素性へ。

6. 母音音素認定の手続き。母音音素体系。音声学と音韻論。

7. 基本体系と第二体系。日本語の音節体系の発展。通時態は共時態の中にある。通時と共時の和解。構造的要因。構造主義について。

8. 形態論。文法カテゴリーの研究（1）。動詞の文法カテゴリー。《性》（ジェンダー）、《数》（ナンバー）。

9. 《肯定・否定》、日本語の《否定》。

10. 《人称》。《時制》。日本語の《時制》。《相対的時制》（《順序》）と《時制》の区別。

11. 《態》。日本語の《態》と《アスペクト》。《態》と《人称》と《やり・もらい》。

12. 前半まとめ。復習

（後期）

1. 《話法》。日本語の《話法》。《伝達話法》（《叙述話法》と《推量話法》）、《呼び掛け話法》（《意志・勧誘話法》と《命令話法》）。

2. 《推量話法》の研究。

3. 語尾形。語幹形（基本語幹形と二次語幹形）。結合形。文形の区別、名詞の文法カテゴリー。日本語の《ジェンダー》。助数詞。格。格助詞。副詞格と文法格。格助詞かダの変化形か。

4. 意味論・語彙論・文法論。慣用の研究。語彙函数。構造語彙論。

5. 強め - 強調語。讃え - 称讃語。正しさ - 真正語。

6. 動詞化動詞。始まり - 開始語。終わり - 終止語。

完了 - 完了語。続き - 継続語。繰り返し - 反復語。

7. 充たし - 充たし語。生み - 生成語。調べ - 調べ語。

ゼロ化 - 無化語。悪化 - 悪化語。攻撃 - 攻撃語。成果 - 成果語。鳴き声のオノマトペ。

8. コトとコトの参加者（復習）。参加者を示す名詞。

時・場所・状況を示す名詞。

9. 助数詞。集合 - 集合語。集団 - 集団語。成員 - 成員語。頭（かしら） - 頭目語。
10. 同義・類義 - 同義語・類義語。敬い - 敬語。反義 - 反義語。
11. 反転 - 反転語。総括 - 総括語。品詞転換 - 品詞転換語。
12. 後半のまとめ。全体の展望。試験の概要説明。

科目名	スペイン・ラテンアメリカ文化論
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

月曜と水曜は授業内容が異なるので注意してほしい。月曜は言語表現を通しての比較文化論。水曜は植民地論。双方の授業においてスペインとラテンアメリカを結びつけるもの、ひきはなすものは何かを探るよう努力したい。ビデオを用いて授業を活性化させる。

講義概要

月曜 スペイン語の言語表現に反映するスペイン人の国民性を考察する。ただしはじめのうちは風俗・習慣など常識として知っておいてほしいことを解説する。水曜 コロンブスの新大陸到着から始まり、ラテンアメリカ諸国のスペインからの独立までスペインがどのようにかわったかを説明していく。

テキスト

月曜 野々山真輝帆著「アミーゴとつきあう法」(晶文社)

参考文献

世界の歴史 18 巻ラテンアメリカ文明の興亡(中央公論社)

評価方法

出席率とテストによる。

受講者への要望

まったく新しく接触する文化圏なので、好奇心を旺盛にもち、まじめに出席し、スペイン語を話す地域についての知識を持ってほしい。

年間授業計画

- 月曜
1. 洗礼と名前のつけ方
 2. 初聖体拝領とは
 3. 結婚式
 4. スペインの国旗
 5. スペインの国歌
 6. ラテンアメリカから入った植物
 7. 挨拶の言葉
 8. ピロガ
 9. 外見美の重要性
 10. Dios を使った表現
 11. オーバーな表現
 12. 女っばい男
- 水曜
1. 大航海時代
 2. "
 3. ネブリッハ

4. 最初の植民
5. 統治・行政の形態
6. コンキスタドール
7. メスティソ
8. インディオ
9. ムラート
10. 18世紀の植民地社会
11. 独立
12. ラテンアメリカがスペインへ影響を及ぼした文学運動モデルニズモ

科目名	現代中国論
担当者	辻 康 吾

講義概要

1999 年建国 50 周年を迎えた中華人民共和国は 80 年代からの改革開放政策の成功によって経済的にも急速に発展、21 世紀の世界においてより重要な役割を果たそうとしている。同時に 4000 年の歴史を背負う国として独自の道を模索している。本講では建国 50 年の歴史を振り返りの、その全容を探る。とくに急速な経済発展がもたらす、政治・社会・文化面での変化に重点をおく。

テキスト

天児慧著『中華人民共和国史』岩波書店 / 小島晋治ら『中国近現代史』岩波書店

参考文献

リストを配布。

評価方法

期末テスト

学生への要望

語学力を向上させるためにも歴史的理解が必要であり、参考文献を可能な限り多数を読むこと。

年間授業計画

教材の順に講義を進め、可能ならば日中関係・環境問題など個別の問題を講義する。

科目名	日本思想史
担当者	川村 肇

講義の目標

1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。
2. 日本思想史の概略的な流れを理解する。
3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。

講義概要

1. 現代の問題を思想の問題の角度から考える。
2. 広く日本の思想史を概説する。
3. 江戸時代の思想について、儒学を中心にグループで調べ、報告しあう。
4. 伝統思想と近現代の思想とのかかわりあいを討議する。

テキスト

配布プリント類

参考文献

- 川村肇『在村知識人の儒学』（思文閣）
 子安宣邦『江戸時代思想史講義』（岩波書店）
 守本順一郎『日本思想史』（全3巻、新日本出版。新書）
 丸山眞男『日本の思想』（岩波新書）
 丸山眞男『日本政治思想史研究』（東大出版会）
 加藤周一『加藤周一対話集』（全5巻、かもがわ出版）
 加地伸行『儒教とは何か』（中公新書）
 吉川幸次郎『論語について』（講談社学術文庫）
 荒木見悟『世界の名著 11 朱子 王陽明』（中央公論社）
 『日本思想大系』（岩波書店）
 E. H. カー『歴史とは何か』（岩波新書）
 その他、授業中に適宜指示する。

評価方法

適宜課すレポートと発表による。

年間授業計画

1. 講義の進め方について
2. 思想史の考え方について（丸山眞男）
3. 上部構造としての思想について（歴史と経済的社会構成体）
4. 中国から見た日本の近代化（竹内好）
5. ヨーロッパから見た日本の伝統（加藤周一）
6. 古代の思想（『古事記』/仏教と十七条憲法）
7. 歴史意識の「古層」について（丸山眞男） 1
8. 歴史意識の「古層」について（丸山眞男） 2

9. 古代の思想（最澄と空海）
10. 中世の思想（鎌倉仏教）
11. 儒教とは何か（加地伸行）
12. 朱子学と陽明学（荒木見悟）
13. 江戸時代の思想（儒学）
14. グループ学習
15. グループ学習
16. グループ学習
17. グループ学習
18. グループ学習
19. グループ学習
20. グループ発表
21. グループ発表
22. グループ発表
23. グループ発表
24. 討議とまとめ

科目名	日本文化・芸能論
担当者	飯島 一彦

講義の目標

日本の文化とは、長い歴史を経て現在我々の目前に表現される、様々な、有形無形の「精神のかたち」のことをいう。芸能は具体的には「かたち」が固定して残りにくい文化ではあるが、感覚や精神に直接的に働きかけるという点では、「精神のかたち」を考えやすいと言える対象である。本講義は日本の芸能を通して日本の文化を考えていく。

講義概要

日本の芸能は大雑把に言って、民俗芸能・古典芸能・大衆芸能に分けることができる。このうち民俗芸能・古典芸能は長い期間姿を変えず、文化として考えるとき対象にしやすい安定性を持っている。そこで民俗芸能・古典芸能に見ることができる、日本文化の基盤的発想と表現を、次の7種類のテーマ及びそれに関わる芸能を中心に、映像資料・歴史資料を用いて分析し、論じて行く。1 神の出現と芸能、2 農耕の習俗と芸能、3 歴史の表現と芸能、4 仏教と芸能、5 恋愛の表現と芸能、6 まれびとと芸能、7 遊びと芸能と日本文化

テキスト

教室で指示する

参考文献

教室で指示する

評価方法

原則として各テーマ毎の小レポートと、期末のレポート、課題として祭り・民俗芸能フィールドワークや舞台芸能（歌舞伎・能など）の鑑賞を課す。

受講者への要望

日本の文化を学び、理解しようとする意欲のない学生は基本的に講義に参加してはいけない。3年生からのゼミで日本の文化・芸能を専攻しようとするものは是非選択すること。

年間授業計画

1. ガイダンス、日本文化と芸能、芸能とは
2. 民俗芸能と古典芸能
3. 神の出現と芸能（春日若宮御祭りの芸能）
4. 神の出現と芸能（日本の神、南島の芸能）
5. 神の出現と芸能（能の翁など）
6. 農耕の習俗と芸能（中国地方の花田植え）
7. 農耕の習俗と芸能（宮城県の田植え踊り）
8. 農耕の習俗と芸能（山形県の田植え踊り）

9. 歴史の表現と芸能（狂言・平曲、など）
10. 歴史の表現と芸能（歌舞伎）
11. 歴史の表現と芸能（南島の芸能など）
12. 仏教と芸能（四天王寺精霊会の舞楽）
13. 仏教と芸能（儀式と声明）
14. 仏教と芸能（儀式と民俗芸能）
15. 恋愛の表現と芸能（浄瑠璃）
16. 恋愛の表現と芸能（歌舞伎）
17. 恋愛の表現と芸能（遊女・道行）
18. まれびとと芸能（鹿踊り）
19. まれびとと芸能（鬼剣舞）
20. まれびとと芸能（盆踊り・南島の祭りなど）
21. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
22. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
23. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
24. 予備日

科目名	日本近現代史
担当者	今野 日出晴

講義の目標

日本の近現代史を対象にしながら、歴史を学ぶ意味、そして、歴史に接近する方法を考えてみたい。過去は、現在から切り離されたものと感じられ、未来は、不透明でかすんでいるように見える。こうした状況において、立脚する視座と方法を鍛えることはますます重要になってきている。自明のものと思われるさまざまな概念を検討することで、私達の近現代史像を練り上げて、「過去と未来の対話」を試みたい。

講義概要

日本近現代史とされる場合の「日本」とは何か、「近代」とは何か。それらは、どのように論じられてきたのか。そして、実際の歴史の道程は、どのような筋道をたどって現在に至るのか。具体的な歴史の事象から、現在を理解するためのテーマを設定して、ともに考えてみたい。

テキスト

特に定めない。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

筆記試験によって評価する。レポートも適宜課して評価の対象とする。

受講者への要望

受動的ではなく、積極的な態度で授業に参加することを期待する。

年間授業計画

1. 歴史を学ぶ意味
2. 歴史学と物語 - 方法からの問い(1) -
3. 歴史学と物語 - 方法からの問い(2) -
4. 物語論の問題性
5. これまで学んできた「日本史」と「近現代史」
6. これまで学んできた「戦争」
7. 「日本」とは何か - 国号をめぐる -
8. 国民国家論の視座 - その1 -
9. 国民国家論の視座 - その2 -
10. 明治維新と国民国家
11. 制度としての「美術」- 日本画の成立 -
12. 制度としての「美術」- 歴史画 -
13. 戦争画とナショナリズム
14. 天皇の肖像 - 視線の政治学 -

15. 皇后の肖像 - 女性の国民化 -
16. 戦争のイメージ
17. 戦争と女性
18. 軍隊と兵士
19. アジア・太平洋戦争 - 国民と動員 -
20. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料(1) -
21. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料(2) -
22. アジア・太平洋戦争 - 沖縄戦 -
23. 戦争責任論の現在 - インターネットから -
24. 過ぎ去ろうとしない過去

科目名	日本経済論
担当者	伊藤正昭

講義の目標

21世紀に入っても、1990年代のいわゆる失われた10年間の負の遺産ともいべき多くの未解決の課題をかかえたままである。年輩者が簡単に「失われた10年」というけれども、1980年代生まれの学生にとっては物心がついてからずっと大人は何もしてこなかったのかと批判したくもなるであろう。ここはひとつ日本経済の過去を振り返りながら、現状を的確に把握する力を養うことが必要である。現実をありのままに理解できるように講義をとおして共に考えていきたい。

テキスト

未定

参考文献

橋本寿朗・長谷川 信・宮島英昭『現代日本経済』有斐閣アルマ、1998年
 伊藤正昭『改訂版地域産業論』学文社、2001年
 日本経済新聞社編『犯意なき過ち 検証バブル』日本経済新聞社、2000年
 加藤創太・小林慶一郎『日本経済の罫 なぜ日本は長期低迷から向け出せないのか』日本経済新聞社、2001年。
 各年版「経済白書」および「中小企業白書」

評価方法

[前期]レポート提出

[後期]筆記試験

出席を重視し、前期レポートおよび後期筆記試験の結果により総合的に評価する。

受講者への要望

常日頃から「日本経済新聞」などに接して最新の経済情報、経済的知識を積極的に蓄積するように努めてください。

年間授業計画

1. ガイダンス
2. 戦後の日本経済(1) 1945年 高度成長期
3. 戦後の日本経済(2) 高度成長のメカニズム
4. 戦後の日本経済(3) 構造不況と成熟化(オイルショックと経済の変質)
5. 戦後の日本経済(4) 貿易摩擦から経済摩擦、そして国際協調の時代へ
6. バブルの形成と崩壊
7. 失われた10年の意味

8. 規制緩和の潮流(1) 規制緩和の目的と実態および効果
9. 規制緩和の潮流(2) 日本経済の高コスト体質は規制緩和で改善
10. 金融システムの変容(1) 金融制度の問題点は何か
11. 金融システムの変容(2) 金融政策の有効性について考える
12. 前期のまとめ
13. 財政システム(1) 財政改革と景気回復(ケインズ型政策の限界)
14. 財政システム(2) 中央と地方の財政問題
15. 地方分権と地域経済の発展(1)
16. 地方分権と地域経済の発展(2)
17. 産業政策(1) 新規創業支援、ベンチャービジネス支援
18. 産業政策(2) 産業の空洞化と対策
19. 地域産業と政策の展開(1)
20. 地域産業と政策の展開(2)
21. グローバリゼーションの中の日本経済(1) 先進国との関係
22. グローバリゼーションの中の日本経済(1) 発展途上国との関係
23. 中国の経済発展と日本経済
24. 年間講義のまとめ

科目名	日本政治外交史
担当者	容 應 莢

講義の目標

人間の営みには連続性がある。歴史を知らずして、現在や未来の国際関係を語ることはできない。本講義は、日本が東アジアに位置するということから、特に中国、朝鮮との関連という視点から日本の国際関係史を概観することを目標とする。

講義概要

19 世紀前半における西洋列強の東アジア進出から 1990 年代の冷戦構造崩壊期までの日本政治外交史を扱う予定である。

テキスト

入江昭『日本の外交：明治維新から現代まで』中公新書

池井優『日本外交史概説』慶應通信

参考文献

中央公論新社『世界の歴史』第 27 巻

文芸春秋社『大世界史』第 20 巻

衛藤藩吉『東アジア政治史研究』東大出版会

増田義郎『日本人が世界史と衝突したとき』弓立社

司馬遼太郎『「明治」という国家』日本放送出版協会

石光真清『石光真清の手記』中公文庫

城山三郎『落日燃ゆ』新潮文庫

評価方法

(1) 数回の予告なし小テスト、(2) 期末試験によって行う。

受講者への要望

出席を重視すること。 授業内容に関する質問は授業中随時すること。

年間授業計画

1. 講義概要と方針の説明
2. 大航海時代
3. 西洋の衝撃と近代アジアの成立
4. 列強の砲艦政策
5. アヘン戦争
6. 日本の開国
7. 明治維新
8. 留学生の派遣
9. 朝鮮問題、日清戦争
10. 日露戦争
11. 明治日本のアジア諸国への刺激

12. 辛亥革命

13. 同盟協商外交

14. 第一次世界大戦とワシントン体制

15. 日華紛糾

16. 共産主義勢力の台頭

17. 満州事変

18. 張学良と西安事件

19. 日中戦争

20. 日独伊三国同盟

21. 太平洋戦争

22. アメリカの対日占領

23. 冷戦期の日本と東アジア

24. 90 年代の日本外交

科目名	日本研究特殊講義 A (能楽における中世武士の諸像)
担当者	瀬尾 菊次

講義の目標

中世に日本で誕生した能楽がそれ以後の日本の芸能にどのように影響を与えていったのかを能の全体像を解明しながら考察する。

また作品に登場する「中世武士」の生涯を通して、生活習慣、年中行事などが生きていくなかで、通過していく人生儀礼・風習などが現代にどのように残っているのかも考察する。

講義概要

「判官びいき」の言葉をうみ、日本人の考え方に影響を与えた「源義経」を主人公にした能「安宅」が、以後の芸能、歌舞伎・映画にどのように取り入れられているかをビデオ鑑賞しながら作品研究し、能における表現方法を現役の能楽師が実技をふまえながら探っていく。

テキスト

関連資料のプリントを配布

参考文献

「能と義経」櫻間金記著 光芒社

「能狂言事典」・平凡社

評価方法

- ・前期（自分の住んでいる近くの能の史跡の現地取材）
- ・後期（能・歌舞伎・映画での義経像を考察）
- ・能楽堂での鑑賞（期日自由選択）

以上三点のレポートによる。

受講者への要望

学問的解釈にとどまらないために、実際に能楽堂での鑑賞を体験してもらう。

年間授業計画

1. 「安宅（勸進帳）」事件の背景
2. 源義経の生涯と時代背景
3. 同上
4. 義経の生涯と能との関連
5. 能楽（能と狂言）の概説
6. 能について その
能のながれ
7. 能について その
能楽師と狂言師
8. 能について その
能舞台について
9. 能について その

能の現行曲、史跡と現地取材との関連

10. 映画「虎の尾を踏む男達」黒澤明監督ビデオ鑑賞
11. 歌舞伎「勸進帳」作品研究とビデオ鑑賞
12. 同上
13. 能「安宅」の作品研究とビデオ鑑賞
14. 同上
15. 同上
16. 能の演技について
17. 同上
18. 「安宅」・「勸進帳」の比較
19. 同上
20. 能の作品構成・夢幻能と現在能
21. 同上
22. 現代の能
23. 前衛演劇と能
24. まとめ

科目名	日本語文法論
担当者	城田 俊

講義の目標

伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうになると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という内容が明確な語形を混在させるところの「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくとも日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快な文法が現出する。

講義概要

下記のテキストに基本的に従い、日本文法の常識的知識を整理する。その上で、語のかたちという観点から、その意味・機能・用法をとらえるよう努める。特に、タベのような語尾のかたち、タベサセ(ル)のような語幹のかたち、読ンデ イルのような結合的なかたちの区別を学び、文法カテゴリー、テンス、アスペクト、ヴォイス、ムード、やり・もらい等の理解を深める。日本語の語尾形による体系、語幹の拡大によって示される文法形態の体系、語尾形と補助動詞との結合によって示される文法形態の体系をしっかり把握する。

テキスト

城田 俊『日本語形態論』ひつじ書房

参考文献

寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』、
くろしお出版

鈴木重幸『日本語文法形態論』むぎ書房

井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』パベル・プレス

吉川武時『日本語文法入門』アルク(NAFL選書6)

評価方法

前期・後期定期試験期間中に一回試験を行う。授業態度も考慮する。

受講者への要望

シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。授業中受講者に質問することがある。積極的参加が望まれる。

年間授業計画

(前期)

1. 序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活

用と語幹活用 - 語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり。

2. 文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者 - 行為者・対象等、発話行為とその構成者 - 話し手・聞き手・第三者。語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等。

3. 語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用。語尾形：終止形 - 伝達話法と呼掛け話法、伝達話法 - 叙述語法と推量話法、叙述語法 - 現在形と過去形、推量話法。

4. 呼掛け話法 - 命令話法と意思・勧誘話法、命令話法(形成・意味・用法) 意志・勧誘話法(形成・意味・用法) 連用形：接続形(形成・意味・用法) 条件形(形成・意味・用法) 例示形(形成・意味・用法)

5. 汎用形【いわゆる連用形】(形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語形成を行う汎用形 - 複合動詞、名詞形成、否定汎用形)

6. 語幹形：基本語幹形(否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態)

7. 二次語幹形：動詞語幹 - 過剰相スギル(形成・意味・用法) 尊敬ナサル、オ+汎用形+ナサル等、願望態形容詞タイ(形成・意味・用法) 願望態動詞タガル(形成・意味・用法) 傾向・容易態形容詞ヤスイ。

8. 傾向態状詞ガチ・ギミ(形成・意味・用法) 可能態動詞エル・カネル(意味・用法) 動作相 - 段階相動詞の形成・意味・用法(始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オウル、ヤメル、ヤム、サス等)

9. 様態相動詞の形成・意味・用法(続ケル・続ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マウル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加エル、タリル、ツカレル等)

10. 将前相状詞の形成・意味・用法(ソウダ) 関連〔タクシス〕: ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等。

11. 結合形、汎用形ベースの結合形 - 形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの結合形、接続形ベースの結合形：テシマク(形成・意味・用法) テイル(形成・意味・用法) テイク/クル、テミル等。

12. テクヤル、テヤル、テモラウ(形成・意味・用法) 前期試験への注意。

(後期)

1. 文形、文の活用、語法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のパラダイム、文形の語形変化、話法体系、話法 - 叙述話法と推量話法、叙述話法 - 平叙話法と既定話法(いわゆるノダ文)。
2. 平叙話法(形成・意味・用法・待遇)、既定話法(形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ+主文とカラ+主文、ノデの共起制限、二とは何か、状態汎用形、語的つらなり - ノデアル、ノデナイ、スコープ)
3. 推量話法、無確信話法 - 無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信(カモシレナイ)文形(形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化)、準拠無確信(ソウダ)文形(形成・意味・用法等)。
4. 確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信(ダロウ)文形(形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化)、無準拠強確信(ニチガイナイ)文形(形成・意味・用法、他の文型のニチガイナイ文形化、語活用、結合形)。
5. 準拠話法、内在準拠確信(ヨウダ)文形(形成・意味・用法、語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化)、外在準拠確信(ラシイ)文形(形成・意味・用法、語活用、結合形等)。
6. 待遇 - 通常待遇と丁寧待遇(形成、動詞文+デスの使用制限、デスとマス、語活用、デシタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題)。
7. 主語撲滅論について、主語と術後、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト(1)、ト(2)、へ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格。
8. 副助詞、完全副助詞、不完全副助詞。
9. 体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞。
10. 日本文法への形態音素論的注解。
11. 文法論(語論と文論)、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か。
12. 復習・整理・まとめ。後期試験に関する注意。

科目名	日本語音声学
担当者	城田 俊

講義の目標

日本語音声の実践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としている。

講義概要

調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義に形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方、教え方に話しを及ぼす。

第二部としてある音素論では、位置の差に着目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。

テキスト

城田俊『日本語の音（おと）音声学と音韻論』ひつじ書房（テスト版）

参考文献

- ・服部四郎『音声学』 岩波書店
- ・川上泰『日本語音声概説』 桜楓社
- ・猪塚元・猪塚恵美子『日本語の音声入門』 バベル・プレス
- ・マリンベル・大橋保夫訳『音声学』 白水社（文庫クセジュ）
- ・城生伯太郎「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店

評価方法

前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。

受講態度も考慮する。

受講者への要望

授業への積極的参加を望みたい。

年間授業計画

（前期）

1. 第 部 音声学、単音、ことばの音（おと）、1 単音か 2 単音か。
2. 発音記号、調音器官。

3. 子音と母音（テキスト 1・2・3 併せて 1 - 25 頁）。
4. 子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有音子音。
5. 非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音。
6. 子音の調音、閉鎖音（1）。
7. 閉鎖音（2）。
8. 弱い閉鎖音、摩擦音（テキスト 4・5・6・7・8 併せて 26 - 52 頁）。
9. 弱い摩擦音、破擦音。
10. 鼻音。
11. はじき音、ふるえ音、側面音（テキスト 9・10・11 併せて 52 - 64 頁）。
12. 前期講義の要点の復習。前期試験の概要の説明。

（後期）

1. 母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」。
2. 母音の調音。
3. 長母音、無声化母音、鼻音化母音（テキスト 13・14・15 併せて 65 - 79 頁）。
4. 日本語の音節、基本体系（伝承された体系、閉鎖体系）、[e][i] に関する規制、[t][ts][d] に関する規制、[h][] に関する規制、[w] に関する規制。
5. 第二体系（革新体系、開放体系） 両体系の差。
6. 長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語音節の特徴（テキスト 16・17・18 併せて 80 - 112 頁）。
7. アクセント、共通語のアクセント、その体系の把握。
8. 他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセント、意味機能、アクセント核（テキスト 19・20 併せて 113 - 124 頁）。
9. 第 部 音韻論、音素論（ ） 母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素。
10. 音素論（ ） 子音の分布と子音音素。
11. 基本体系と第二体系、文化の問題、「開かれた受容性」と「同化による閉鎖性」
12. 後期講義の要点と復習。全体の展望。後期試験の概要と説明。

科目名	日本語史
担当者	小島幸枝

講義の目標

日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史的変遷を迎えることを目的とする。

講義概要

講述にあたっては、時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。

テキスト

国語学会編「国語史資料集」武蔵野書院

参考文献

- ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7（平凡社）
- ・永山勇『国語史概説』（風間書房）
- ・国語学会編『国語の歴史』（改訂版）（刀江書院）
- ・「講座解釈と文法」1～7（明治書院）
- ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』（宝文館）
- ・土井忠生編『日本語の歴史』（至文堂） その他

評価方法

前期・後期にレポート各1本

受講者への要望

日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。

年間授業計画

1. 奈良時代以前（文献以前の）日本語
2. ～3. 奈良時代の日本語
4. ～6. 平安時代の日本語
7. ～10. 鎌倉時代の日本語
11. ～14. 室町時代の日本語
15. ～17. 江戸時代の日本語
18. ～19. 明治時代の日本語
20. 現代日本語（20世紀の日本語）
21. 21世紀の日本語（展望）
22. 言語生活史
23. 位相語の歴史
24. 言語変化とその要因

科目名	対照言語学
担当者	中西 栄子

講義の目標

二言語間（日本語と他の言語 基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1）それぞれの言語についての体系的知識 2）言語の背景にある発想法 3）第二言語としての日本語習得への干渉 4）日本語教育への応用

講義概要

対照言語学の目標は二つの言語の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するかを考えて行くことと捉える。その一方で二言語の体系的な知識を得るという目的も達成するように指導していく。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるかについては、比較対照することによってかなりのことが予測できることが分かっている。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。誤用の資料を検討・分析し、次に検討した事柄についていろいろな角度から比較対照を試みる。

テキスト

無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。

参考文献

- 安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』
大修館書店
- 森田良行『日本語の視点』創拓社
- 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』
くろしお出版
- 国広哲弥編『日英語比較講座 1 4巻』
大修館書店
- 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版
『講座日本語学』外国語との対照 10、11、
12 くろしお出版

評価方法

1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 10% 欠席 6回以上は認めない。

受講者への要望

テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめてお

くこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 語順 理論と誤用分析
3. 語順残り 名詞文・名詞の誤用分析
4. 名詞残り・形容詞
5. 形容詞の誤用分析
6. 意味の誤用分析（形容詞を主として）
7. コソアドとその誤用分析
8. 人称代名詞とその誤用分析
9. 助詞とその誤用分析（ハ・ガノニ・ト・デ・ヲ）
10. 続き（カラ・ノデノタメニ・ヨーニ・ニノニ・ケレド・ナガラ）
11. テンス及びアスペクトとその誤用分析
12. 続き

後期

1. 仮定法
2. 受身（受動態と能動態）とその誤用分析
3. 敬語
4. 課題発表 各人が自分の課題を決めて発表
(発表内容)
 - a. 各テーマについての誤用分析
 - b. 対照・誤用分析に基づいた日本語の導入と説明及び 練習問題の作成
 - c. 日本語のテキストでの扱いかたを調べる

科目名	日本語教授法
担当者	中西 栄子

講義の目標

言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。

講義概要

言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調したい。学生には言語運用能力の教育を重視した教案・教材を作成させ、グループワークを通じて言語教育の方法を理解且つ習得させる。文法・語彙指導は特に強調する点で、日本語の文型を言語機能として捉え、それをどのように学習者に紹介・導入するか、導入した後、それをどのような練習を通して習得させるか等、段階的に様々な活動を積み上げていき、最終的には発話場面や文脈に沿った言語運用ができるように指導する方法について学習する。

テキスト

中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版

プリントのハンドアウト

参考文献

- ・D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社
 - ・A. C. Omaggio "Teaching Language in Context"
 - ・名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版
 - ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会
- その他授業中に紹介

評価方法

- 1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%

受講者への要望

本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。従って6回以上の欠席は認めない。3年次に履修してほしい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の要因
3. 言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
4. 教材 1. 教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2. その他の専門教材
5. 同上
6. 教室活動と授業分析・教案の書き方
7. 同上
8. 音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
9. 聴解の教材作成と指導 1. 初級 2. 中級 3. 上級 同上
10. 文字表記の指導と教材 1. 平仮名・片仮名の導入 2. 漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
11. 同上
12. 同上

後期

1. 読解力の養成 精読・スキミングと教材作成 1. 初級 2. 中級 3. 上級
2. 同上
3. 文法の指導と教材 意味と文型の導入 1. ドリルから応用へ 2. 絵教材・その他の教材の作成と検討
4. 同上
5. 同上
6. 会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
7. 同上
8. Video 教材の紹介とその使用方法
9. 同上
10. 作文の指導法と評価の方法
11. 同上
12. 評価とテストの作成法

科目名	日本語教授法
担当者	各担当教員

講義の目標

外国語としての日本語を教える方法を考え学ぶ。

講義概要

日本語教育機関での実習を行うための完全に演習的な授業。従って、毎回学生による模擬授業が行われ、その授業観察を通じて、各人が授業内容、指導の進め方、等について具体的に検討しあう。教案作成、指導の様々な副教材の作成も科せられる。

テキスト

『みんなの日本語』

参考文献

初級を教える人のための『日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

評価方法

模擬授業(2回) 教材の提出 模擬授業の反省と自己分析 出席

受講者への要望

クラス活動への参加が重要なので、欠席は極力避けること。与えられた課題をきちんと果すこと。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. 教案の書き方とオブザベーション
3. 模擬授業グループ別
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上

科目名	現代思想
担当者	松丸 壽雄

講義の目標

他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。

講義概要

日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想および宗教的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。また、コミュニケーション理論や認知科学に多大の影響を与えているコンストラクティヴィズムなどを批判的に取り組み、他者理解の場所の可能性を探る。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

レポートの内容により評価。

受講者への要望

講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。

年間授業計画

1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。
2. 日本の近代思想（明治期）
3. 日本の近代思想（明治・大正期）
4. 現代日本思想（1）西田哲学
5. 現代日本思想（2）京都学派
6. 現代日本思想（3）その他
7. 中国の思想と宗教（1）儒教
8. 中国の思想と宗教（2）宋学
9. 中国の思想と宗教（3）道教と現代
10. インドの思想と宗教（1）ジャイナ教と唯物論
11. インドの思想と宗教（2）仏教と現代インド
12. インドの思想と宗教（3）ヒンドゥーと現代
13. 現代西洋思想（1）ドイツの実存思想
14. 現代西洋思想（2）ドイツの実存思想（続き）
15. 現代西洋思想（3）ドイツの現代思想
16. 現代西洋思想（4）ドイツの現代思想（続き）
17. 現代西洋思想（5）フランスの実存思想

18. 現代西洋思想（6）フランスの現象学
19. 現代西洋思想（7）フランスの現象学（続き）
20. 現代西洋思想（8）フランスの精神科学
21. 現代思想（1）科学の立場
22. 現代思想（2）科学と哲学
23. 現代思想（3）科学と宗教
24. 現代思想（4）科学と倫理

科目名	自然言語処理
担当者	呉 浩 東

講義の目標

自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語とされている。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものである。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とする。

講義概要

本講義は、自然言語処理の基礎技術について解説する。ここでは、自然言語の形態素・構文解析、意味解析、辞書やシソーラスについての基礎から説明を行い、さまざまな知識を自然言語処理に応用することについて概説する。コンピュータを利用して資料やソフトの収集、言語データを用いて演習も同時に行う。さらに、自然言語処理の応用技術を解説し、いくつかの応用例を紹介する。特に、校正支援システムや要約システム、機械翻訳システム、情報検索、自然言語理解システムなどの基本技術・基本アーキテクチャを説明する。そして、実際のシステムを評価し、問題点を検討しながら、これから解決すべき課題を明らかにする。

テキスト

最初の講義で指示する。

参考文献

- (1)「自然言語処理」長尾真編 岩波書店 1996
- (2) "Foundations of Statistical Natural Language Processing" C. D. Manning, H. Schütze, MIT Press, 1999
- (3) "Foundations of Computational Linguistics (man-machine communication in natural language)" R. Hausser, Springer-Verlag, 1999
- (4)「言葉と言語処理」古郡廷治著 昭晃堂 1997
- (5)「自然言語処理」石崎俊著 昭晃堂 1997
- (6) "Statistical Language Learning" E. Charniak, MIT Press, 1993

評価方法

提出するレポートと筆記試験の結果を併せて評価する。

受講者への要望

受け身で聞いているだけでなく、積極的に質問をして欲しい。

年間授業計画

1. 言葉とコンピュータ 人工言語、自然言語、自然言語処理の諸方面
2. 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性
3. 言語処理の知識源(1) 電子辞書、シソーラスの構造と情報抽出
4. 言語処理の知識源(2) コーパス、言語データベースの種類と使い方
5. オンライン言語資源の使用 インターネットから言語資源の使用法
6. 形態素解析(1) 形態素解析の方法
7. 解体素解析(2) 品詞のタグ付け日本語と英語の形態素解析実験
8. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正、単語の統計処理、Zipfの法則
9. 言語の統計処理(1) コーパスからさまざまな知識の抽出技術
10. 言語の統計処理(2) 希薄的データ問題とその解決方法
11. 構文解析(1) 文の構造、構文木、文法規則、構文解析について
12. 構文解析(2) 日本語・英語構文解析の実験
13. 意味解析(1) 意味構造、意味解析に用いる知識
14. 意味解析(2) 意味解析の諸手法
15. 語彙的曖昧性 語彙的曖昧性の解消、訳語選択
16. 構文的曖昧性の解消 前置詞句の係り先、等位構造、複雑名詞句構造の解析
17. 文書処理(1) 文章の校正支援
18. 文章処理(2) 文章の要約自動生成システムの構成、使用及び評価
19. 機械翻訳(1) 機械翻訳システムの使用と評価
20. 機械翻訳(2) 機械翻訳の処理方式、機械翻訳システムの種類
21. 文脈解析 談話構造、照応問題の解決
22. 情報検索(1) 情報検索における言語処理技術
23. 情報検索(2) 索引語の選定、語の頻度情報の利用、情報の抽出と要約
24. まとめ 統合的な自然言語処理、自然言語処理の未来への展望

科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者	石井 敏

講義の目標

本講義には3種類の基本目標がある。第1の目標は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化移入・模倣の一方方向コミュニケーションの態度を異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの態度に転換することである。そして第3の目標は、上の2目標を達成するために不可欠な条件として、日本社会・文化に対する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を養成し、健全な異文化間コミュニケーション能力の基礎を築くことである。

講義概要

本講義の総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係、そして日本社会における研究・教育上の現状と今後の課題である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」、「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化理解とコミュニケーション技能」、そして「異文化コミュニケーション教育の課題と展望」である。

テキスト

古田晁他『異文化コミュニケーション・キーワード(新版)』有斐閣。

参考文献

石井敏他『異文化コミュニケーション』有斐閣。

石井敏他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣。

石井敏他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣。

評価方法

多数の受講者が予想されるため、期末試験の成績による。

受講者への要望

受講者は英語でノートをとることが多いため、授業計画に従って予習をし、必要な辞書や参考書を持参すること。万一欠席をする場合には、友人の協力を得て、欠けた部分の補充を早目にすること。

年間授業計画

1. 一般的導入と受講上の注意。文化、世界観、価値観(教科書2~7頁)

2. 文化相対論、共文化、第三の文化、多文化主義、文化帝国主義(教科書8~19頁)
3. 時間、空間、宗教、人間観、儀礼(教科書20~29頁)
4. 倫理観、法意識、イエ、生死観、個人主義と集団主義(教科書30~39頁)
5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ、タブー(教科書40~49頁)
6. コミュニケーション、コード、意味づけ、フィードバック、知覚・認知(教科書52~61頁)
7. 理解と誤解、感情移入・共感、自己概念、コンテキスト、コミュニケーション・レベル(教科書62~71頁)
8. コミュニケーション・パターン、国際コミュニケーション、コミュニケーション倫理、IT革命、言語政策(教科書72~83頁)
9. 言語と文化、言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック(教科書84~93頁)
10. アポロギア、ロゴス・パトス・エトス、メタファー、スモール・トーク、ユーモア(教科書94~103頁)
11. 敬語、婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、視線(教科書104~115頁)
12. 近接学、身体接触行動、周辺言語、間、沈黙(教科書116~125頁)
13. ハラ、以心伝心、Pタイム・Mタイム、対人関係、文化的アイデンティティ(教科書126~137頁)
14. ガイジン、カルチャー・ショック、縁、和、家族(教科書138~147頁)
15. 公と私、タテとヨコ、ウチとソト、世間体、仲介者(教科書148~157頁)
16. 贈答、礼儀、ホンネとタテマエ、義理と人情、なじみ(教科書158~167頁)
17. 甘え、補完と対称、異性間コミュニケーション、共生、グローカリゼーション(教科書168~179頁)
18. 民族紛争、国際協力、派閥、イノベーション、労使関係(教科書180~189頁)
19. 交渉、稟議と根回し、意思決定、葛藤、多文化経営(教科書190~199頁)
20. 現地主義、国際報道、プロバガンダ、コマーシャル、リーダーシップ(教科書200~209頁)
21. マイノリティ、国籍、国際結婚、外国人就労者、エスニック・ネットワーク(教科書210~219頁)
22. 異文化理解教育、コミュニケーション能力、外国語教育、日本語教育、バイリンガリズム(教科書222~231頁)

- 23 . 通訳・翻訳、民族教育、環境コミュニケーション
教育、海外子女教育、帰国子女教育（教科書 232 ~
243 頁）
- 24 . 海外留学、滞日外国人留学生、国際学校、異文化
カウンセリング、異文化コミュニケーション訓練(教
科書 244 ~ 253 頁)

科目名	カウンセリング論
担当者	瀧本孝雄

- 22. グループ・ワーク(1)
- 23. グループ・ワーク(2)
- 24. 人間理解とカウンセリング

講義の目標

カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。

また、カウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。

講義概要

前半では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的技法について学ぶ。特に傾聴のカウンセリングにおける重要性を理解する。

後半では、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達の諸問題について理解する。

テキスト

「新版カウンセリングと心理テスト」林潔他著、ブレーン出版

評価方法

出欠席、レポート提出により評価する。

受講者への要望

出欠席を重視するので、授業に休まないことを要望する。

年間授業計画

1. カウンセリングとは何か(定義・目的)
2. カウンセラーの役割と資格
3. カウンセラーの世界(相談機関)
4. クライアント中心カウンセリング(1)
5. クライアント中心カウンセリング(2)
6. 精神分析的カウンセリング
7. 認知行動カウンセリング
8. 傾聴の理論
9. 傾聴の実習
10. ロールプレー実習(1)
11. ロールプレー実習(2)
12. 教育、産業、医療とカウンセリング
13. パーソナリティの定義
14. パーソナリティの類型論と特性論
15. パーソナリティの形成と変容
16. 文化とパーソナリティ
17. 発達とパーソナリティ
18. 葛藤の理論
19. 欲求不満(フラストレーション)
20. 防衛機制
21. ストレス・マネジメント

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (情報処理)
担当者	東 孝 博

講義の目標

Java は 1995 年に Sun Microsystems 社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミング経験のない人間が Java を理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTML から呼び出されて実行されるアプレットによる Web ページ上のグラフィックス描画を通して、Java 言語の一端を知ることがを目標とする。なお、Java アプレットによりインタラクティブでアクティブなより高度のホームページを作ることができるが、ホームページ作りがこの講義の目的ではないことを留意して欲しい。

講義概要

最初に、簡単な CGI の利用と Java スクリプトの埋め込みを通して、HTML による Web ページ作りの復習をする。次に、Java アプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。

その後本論に入り、Java プログラムの基本構造について説明し、イベント処理、GUI 部品の使用、フレームの作成、スレッドの利用を通して Java アプレットへの理解を深めていく。

テキスト

授業の最初に指定する。

参考文献

適宜紹介する。

評価方法

日常の授業への参加態度と演習により評価を付ける。

受講者への要望

情報科学各論 (HTML 入門) 修了者か、または、それと同等程度のものを対象とする。グラフィックス描画には座標、関数など数学的な考え方が必要になることを考慮した上で選択して欲しい。

年間授業計画

1. HTML の復習
2. CGI の利用と Java スクリプト
3. Java の概要
4. 変数、配列、文
5. イメージの表示

6. グラフィックスの描画
7. Java の基本構造 (1)
8. Java の基本構造 (2)
9. イベント処理 (1)
10. イベント処理 (2)
11. イベント処理 (3)
12. まとめ
13. 前期の復習
14. GUI 部品の使用 (1)
15. GUI 部品の使用 (2)
16. GUI 部品の使用 (3)
17. GUI 部品の使用 (4)
18. フレームの作成 (1)
19. フレームの作成 (2)
20. フレームの作成 (3)
21. スレッドの利用 (1)
22. スレッドの利用 (2)
23. スレッドの利用 (3)
24. まとめ

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コーパス言語学入門)
担当者	井口厚夫

24 .(予備)

講義の目標

言語情報解析を目的とする。

講義概要

Web 上やその他のメディアで入手できる言語データをパソコンを用いて処理し、言語学研究に役立てるようにする。言語データは日本語を基本とする。なおこの講義は Semester 制により後期完結週二日の授業形態である。

テキスト

上田博人『パソコンによる外国語研究(2)文字データの処理』くろしお出版

評価方法

レポート及び授業への貢献度

受講者への要望

パソコンはあくまでツールとして使う。それ自体が目的ではない。
言語（特に日本語）および言語学の興味を持つ学生に受講してもらいたい。

年間授業計画

1. イントロダクション
2. OSの基礎(ログイン、メール)
3. エディタ
4. ブラウザ
5. データの収集 1
6. データの収集 2
7. データの検索 1
8. データの検索 2
9. 応用研究 1
10. 応用研究 2
11. データの加工 1
12. データの加工 2
13. 正規表現 1
14. 正規表現 2
15. 応用研究 3
16. 応用研究 4
17. 文法情報(タグ付け)
18. 形態素解析-茶筌等で-
19. 応用研究 5
20. 応用研究 6
21. コンコーダンス
22. 応用研究 7(外国人用日本語辞書)
23. 応用研究 8(外国人用日本語辞書)

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)
担当者	呉 浩 東

講義の目標

本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。

講義概要

前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。

後期は、プログラミングの方法を概説し、いくつかの応用例をあげる。その後、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。まず、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。その後、自然言語処理について諸技術を紹介する。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する。
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。

評価方法

前・後期各一度のテストと、2 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。

年間授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説
コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能
2. プログラミング言語とオペレーティングシステム
コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI
3. ソフトウェア開発手順
プログラム開発の手順、システム開発の手順
4. Visual Basic プログラミング(1): Visual Basic(VB)

とは

画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法

5. Visual Basic プログラミング(2): VB を体験してみる
コントロールの配置、プロパティの設定、画面のデザイン
6. Visual Basic プログラミング(3): 何を作ってみよう
プログラムのコーディング、実行、保存および呼び出す
7. Visual Basic プログラミング(4): コントロールについて
コントロールの種類、プロパティ値の設定
8. Visual Basic プログラミング(5): 画面のデザイン
コントロールをデザインするコツ、プロパティの値の取得と演算、メソッド
9. Visual Basic プログラミング(6): データ型と演算子
データ型、変数と定数の宣言、演算子
10. Visual Basic プログラミング(7): ジェネラルプロシージャの活用
Sub プロシージャと Function プロシージャ
11. Visual Basic プログラミング(8): 選択のあるプログラム
選択ステートメント、コントロールの扱い方
12. Visual Basic プログラミング(9): 繰り返しのあるプログラム
各種繰り返し構造
13. Visual Basic プログラミング(10): プログラムフォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成
14. Visual Basic プログラミング(11): グラフィックス
グラフィックスを作る。
15. Visual Basic プログラミング(12): ファイル操作
キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成
16. Visual Basic プログラミング(13): プログラム(2)
配列を用いた実用プログラム例
17. Visual Basic プログラミング(14): プログラムのデバッグ
プログラムのデバッグと実行ファイルの生成

18. 自然言語処理（計算言語学）入門
 - 人工言語、自然言語、自然言語処理における課題
19. 単語処理
 - 単語の同定、誤綴の検出と訂正
20. 言語処理の知識源
 - 電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース
21. 機械翻訳（1）
 - 形態素解析
22. 機械翻訳（2）
 - 構文木、文法規則、構文解析
23. 機械翻訳（3）
 - 文と単語の意味解析
24. 機械翻訳（4）
 - 機械翻訳システムの使用と評価

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義A (コンピュータ・プログラミング論)
担当者	高柳 敏子

講義の目標

本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことを理解するために、原始的なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理およびプログラミングとは何かを学習する。

コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の方法やそのアルゴリズムを学習する。

講義概要

前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。

後期は、一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++ によるプログラミングを通して基本的な情報処理のアルゴリズムをおよび問題解決の技法を学習する。

テキスト

随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

- 「CASL Programming」ITEC (情報処理技術者教育センター) 2001
 B.Stroustrup 著 長尾高弘訳「プログラミング言語 C++」第 3 版、アジソンウェスレイ、1998

評価方法

前期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

後期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

受講者への要望

MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。

また、欠席をしないこと。

受講者を制限するので時間割表を参照すること。

前期授業計画

1. コンピュータの歴史 (1): ハードウェア
ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2. コンピュータの歴史 (2): ソフトウェア
プログラミング言語、オペレーティングシステム .
3. ノイマン型コンピュータの構成
中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 .
4. COMET の処理装置 (1)
語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムレジスタ (PR)、レジスタ (GR, FR, XR)
5. 情報の表現 (1): 数値の内部表現
整数と 2 の補数表記、16 進表現
6. CASL プログラミング (1)
CASL の命令: アセンブラ命令、マクロ命令、機械語命令、プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈
7. CASL プログラミング (2)
CASL の命令: ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保
8. CASL シミュレータとその実行
実習 (1): プログラムの入力、編集、アセンブル、1 命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し
9. CASL プログラミング (3): 乗除算処理
シフト演算、比較演算命令および分岐命令と FR
10. CASL プログラミング (4): 繰り返し処理
XR の効用
11. 情報の表現 (2): 文字の内部表現
入出力命令と ASCII コード、JIS コード
12. CASL プログラミング (5): メインプログラムとサブプログラム
実習 (2): 練習問題

後期授業計画

1. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳、関係編集、実行
実習 (3): C++ 例題とコンパイラの操作
2. C++ 言語とは
C++ 言語の基本事項: 文、ブロック、コメント
3. C++ プログラミング (1): 演算と演算子
情報の表現 (3): 実数
4. C++ プログラミング (2): 判断・分岐
関係式、関係演算子、論理演算子

5. C++プログラミング(3): 繰り返し
配列と文字列データ
6. C++プログラミング(4): 関数(メインプログラムとサブプログラム)
関数にデータの値を渡す(call by value)
関数にデータの番地を渡す(call by reference)
7. C++プログラミング(5)
実習(4): 練習問題
8. アルゴリズムとプログラミングの応用(1)
数値計算と例題
9. アルゴリズムとプログラミングの応用(2)
データ構造と整列
10. アルゴリズムとプログラミングの応用(3)
データ構造と探索
11. アルゴリズムとプログラミングの応用(4)
ファイル処理の例題
12. アルゴリズムとプログラミングの応用(5)
実習(5): 応用問題

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義A (コンピュータ・プログラミング論)
担当者	立 田 ル ミ

講義の目標

現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのため、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。

講義概要

コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。

テキスト

立田ルミ"教育システム情報と Visual Basic"朝倉書店

参考文献

立田ルミ "情報メディア入門"実教出版

その他、Visual Basic に関する参考文献は授業中に提示する。

評価方法

前期：レポート : 60%
ネットワーク上に提出
定期試験 : 40%
後期：レポート : 60%
ネットワーク上に提出
定期試験 : 40%

受講者への要望

この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。教室割当は抽選するので、教務課の掲示に従うこと。コンピュータ入門(情報処理概論)を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。

前期授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：講義
パーソナルコンピュータ誕生までの背景、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
2. ソフトウェアの歴史と概略：講義
ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows2000 の概略、ネットワークの概略
3. 教育におけるコンピュータの役割：講義
プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間
4. Visual Basic の概略：講義と実習
イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
5. 簡単なプログラム作成(1)：講義と実習
アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力
6. 簡単なプログラム作成(2)：講義と実習
四則演算、変数のまとめ
7. 選択のあるプログラム作成(1)：講義と実習
アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
8. 選択のあるプログラム作成(2)：実習
多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
9. 選択のあるプログラム作成(3)：実習
オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
10. 選択のあるプログラム作成(4)：実習
リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
11. 繰り返しのあるプログラム作成：講義と実習
If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
12. 総合問題作成：実習
いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。

後期授業計画

1. 図形の処理(1)：講義と実習
直線を描く、曲線を描く
2. 図形の処理(2)：講義と実習
円を描く、色を塗る
3. 図形の処理(3)：講義と実習

Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす

4. 図形の処理 (4): 講義と実習
ドラッグアンドドロップを使う
5. 音声・動画の処理 : 講義と実習
音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション
6. 配列とコントロール配列 : 講義と実習
一次元配列、コントロール配列、二次元配列
7. プルダウンメニュー : 実習
コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用
8. ファイルの利用 (1): 講義と実習
コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み
9. ファイルの利用 (2): 講義と実習
ランダムファイルの利用:ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み
10. ファイルの利用 (2): 講義と実習
アクセスファイルの利用:アクセスファイルの作成、アクセスファイルの読み込み
11. インターネットの利用 : 講義と自習
Visual Basic とホームページとのリンク、ホームページ作成
12. まとめ : 講義と実習
課題の説明と作成

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義A (人間行動論)
担当者	鳥谷部 志乃恵

講義の目標

異文化を背景にした人間や異なる地域・思考の人間が 21 世紀に向かって互いに理解しあい、意志の疎通が出来る必要がある。そのためには人間行動にかかわる問題を明確に示す課題を置き、それらのテーマにそって人間そのものを解明していく事は必要不可欠な問題である。行動として表れるその時々々の現象のメカニズムや、その根幹を成している個体としての人間の身体運動の原理を学び、体力のことや高度な技術の可能性と限界といった人間の諸問題を様々な方面から有機的に結びつけるよう意図した科目。

講義概要

コミュニケーションの多様性や、能力の発達段階である幼児の時期から、その発達段階に現れる様々なコミュニケーションの現状とその問題点を、就学前と就学後の時期に焦点をあて、現状の課題をも含めて講義する。また人間行動としてのスポーツの中に見られる競技運営に見られるコミュニケーションについて、異文化間のコミュニケーションに言語が重要なように、身体運動にともなうコミュニケーションに必要な要件についての課題を考える。その時々々の人間行動に関わる問題をテーマとし、オムニバス方式に複数の講師によって実施される。

テキスト

その都度講師より紹介される。

参考文献

その都度講師より紹介される。

デズモンド・モリス著「サッカー人間学～マンウォッチング～」その他(松原裕)

評価方法

講師担当毎に評価。担当 4 名の総合による。

6 回の出席、受講態度、授業に対する理解度などを総合して評価する。(松原裕)

受講者への要望

継続した出席、質疑応答、6 月のワールドカップサッカーへの関心(松原裕)

年間授業計画

1. ガイダンス・・・鳥谷部

2～7 鳥谷部志乃恵

2～3. <コミュニケーション能力の発達>

誕生時から一歳前後の発達に見られるコミュニケー

ション能力

(立つ、歩く、ものに関わる、ことばを使い始める)
4～5. 二歳から四歳前後までの発達に見られるコミュニケーション能力

(親子、兄弟姉妹など身近な人々との関わりを通じて育まれる基本的信頼感、友だちへの興味と遊びを通じての仲間意識の獲得)

6. 五歳から六歳前後までの発達に見られるコミュニケーション能力

(引っ込み思案から自発的活動への準備、イメージの拡張と認識の世界の広がり、想像力が飛躍的に伸びる、物語作りの基礎となる思考の働き、「今」「ここ」を越える力としての読み書き能力の獲得)

7. 発達研究の現状と課題

乳児の認知研究、認知の発達研究、表現の発達、人間関係の発達研究の現状、発達ということの裏と表、共同性(個と他者の対話)の問題、能力と活動と意味のつながりの問題、発達ともう一つの時間(希望)の問題

8～13 安井一郎

8. 学校教育におけるコミュニケーションの機能とその課題

9. 民主主義教育の成立自治的活動の発展

10. 学力重視の教育と教師 生徒関係の変化

11. 学校教育の荒れと教育改革の課題

12. 新教育課程下における学校教育の課題 1: ゆとり教育と学力問題

13. 新教育課程下における学校教育の課題 2: 総合的学習と新しい学びの創造

14～18 梶野克之

14. スポーツとコミュニケーション(1)

スポーツ人類学から見たコミュニケーションについて考察

15. スポーツとコミュニケーション(2)

近代スポーツの成立とコミュニケーションについて考察

16. スポーツとコミュニケーション(3)

フットボールの伝播とコミュニケーションについて考察

17. スポーツとコミュニケーション(4)

現代スポーツ現象とコミュニケーションについて考察

18. スポーツとコミュニケーション(5)

競技種目の特性とコミュニケーションについて考察

19～24 松原裕<サッカーにおけるコミュニケーション

>

19. サッカーにみるコミュニケーション
サッカーは世界の言葉、サッカー部族について
20. サッカーにみるコミュニケーション
ワールドカップサッカーについての歴史
21. サッカーにみるコミュニケーション
日本におけるサッカーについて
22. サッカーにみるコミュニケーション
日本と朝鮮のサッカー交流史（前半）
23. サッカーにみるコミュニケーション
日本と朝鮮のサッカー交流史（後半）
24. サッカーにみるコミュニケーション
サッカーの未来、まとめ

科目名	地域文化論 i (ラテンアメリカ)
担当者	佐藤 勘治

講義の目標

ラテンアメリカ・カリブ海地域に関する入門の授業である。高校レベルの基礎的知識およびプラスアルファの現代的問題に接近する授業である。ラテンアメリカの特質を知ってもらいたい。一部、米国のラティーノについて基礎的問題を考えたい。

講義概要

最初の三分の一で、基礎的知識の整理を行う。昨年度はビデオを見たが今年はビデオとともに教科書（高校レベル）を併用する。次に、ラテンアメリカを特徴づける民族問題について論じていく。最後の三分の一では、現代ラテンアメリカの諸問題を社会、政治、文化、宗教などをトピック的に扱う。人数にもよるが、英語、スペイン語、日本語で書かれた小論を学生に発表させたい。また、適宜、ラテンアメリカに関する新聞記事を紹介してもらおうつもりである。

テキスト

高橋均『ラテンアメリカの歴史』世界史ブックレット 26 山川出版
適宜、プリントを配る

参考文献

「獨協大学生のためのスペイン語・ラテンアメリカ研究入門」
<http://www2.dokkyo.ac.jp/spla/review/index-1.html>
内の推薦文献を参照のこと

評価方法

小テストおよび平常点、期末レポートを総合的に判断する

受講者への要望

積極的発言を望む

年間授業計画

1. 授業内容の紹介
2. ラテンアメリカの地理的範囲
3. ラテンアメリカの民族 / インディオとメスティーノ
4. ラテンアメリカの民族 / 黒人とクレオール
5. Reconquista と Conquista
6. 植民地時代
7. 十九世紀
8. 現代ラテンアメリカ
9. 基礎知識に関する小テスト

10. 米ラテンアメリカ関係史(1)米西戦争、パナマ独立まで
11. 米ラテンアメリカ関係史(2)キューバ革命
12. 米ラテンアメリカ関係史(3)チリ革命
13. 米ラテンアメリカ関係史(4)中米紛争
14. 米ラテンアメリカ関係史(5)サパテイスタと NAFTA
15. 褐色の聖母「グアダルupesの聖母」(スペイン語文献を読む)
16. 上記の続き
17. ラテンアメリカの政治の特色「権威主義体制」(日本語論文を読む)
18. 占領されたメキシコ / 米墨戦争から NAFTA まで (スペイン語文献を読む)
19. 上記のつづき
20. アルゼンチン (日本語論文を読む)
21. ブラジル (日本語論文を読む)
22. 米国のラティーノ (英語論文を読む)
23. ラテンアメリカ・ウオッチ
24. ラテンアメリカ・ウオッチ

科目名	地域文化論（スペイン）
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

スペインとはいかなる国か？他のヨーロッパ社会との違いは？月曜は歴史的な面から考察。水曜は現代社会の諸問題を取りあげる。毎回ビデオを用い、講義を活性化する。

講義概要

月曜 スペイン人の国民性にふれ、その背景にある歴史を考える。またとくにアンダルシアを取りあげ、スペインのアイデンティティとされる闘牛、フラメンコにもふれる。水曜 フランコの死後、民主化したスペインの社会問題を取りあげる。

テキスト

野々山真輝帆著「すがおのスペイン文化史」(東洋書店)

参考文献

斉藤孝編「スペイン・ポルトガル現代史」(山川出版社)

野々山真輝帆「スペイン辛口案内」(晶文社)

評価方法

出席率とテストによる

受講者への要望

日本と比較して考えてほしい。またスペイン語の履修者はこのコースによってスペイン文化の理解を深めてほしい。

年間授業計画

1. 月曜 スペイン人の国民性と歴史的背景
2. " "
3. " "
4. " "
5. " "
6. " アンダルシアとナショナリズム
7. " フラメンコ
8. " 闘牛
9. " バンプロナの牛追い祭
10. " パティオ
11. " 食文化
12. " "
13. 水曜 フランコ時代の男女交際
14. " ファン・カルロス国王
15. " 中絶
16. " 性差別と教育
17. " 女性の社会進出

18. " ホモセクシュアル
19. 水曜 初等中等教育の問題点
20. " 歴史教育
21. " 外国人移民
22. " 若者の価値観
23. " "
24. " "

科目名	地域文化論（中国）
担当者	辻 康 吾

講義概要

約百年にわたる動乱と革命、そして過去 20 年の急速な近代化。中国は大きく変容しつつも、また 4000 年の歴史を背負っている。“ 変る中国・変らぬ中国 ” の二面性をその文化の中から探る。

テキスト

中国語原書『中国文化要略』（コピーを配布）

参考文献

リスト配布。

評価方法

期末テスト

学生への要望

予習を重視する。複数の辞書・参考書を利用のこと。

年間授業計画

進捗度に合わせ教材の順で進める。

科目名	地域文化論 iv (中東)
担当者	高橋正男

講義の目標

中東の国際政治の枠組みは中東諸国とアメリカの中東政策との関係によって規定されている。パレスティナ問題も和平プロセスも例外ではない。歴史・民族・宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)をキーワードとしてオスマン帝国の成立(13世紀末-)から第一次世界大戦を経て現在に至るまでの中東諸国の複雑な変遷を講述する。

受講生各自の自作の中東諸国地図必携。

講義概要

中東の地理的範囲は時代によって広狭の差がある。東はアフガニスタンもしくはイラン、西は大西洋に面した北アフリカのモロッコもしくはモーリタニア、北はトルコの黒海沿岸、南はウガンダと国境を接しているスーダン南部、緯度でいえば北は北緯 42° 我が国の函館あたり、南は北緯 3° の赤道直下。中東諸国はアラブ諸国(22 箇国)と非アラブ諸国(4 箇国)から成っている。同地は宗教と政治は種々のレベルで緊張関係にある。殆どの国境は歴史的正当性を持たず、その領域は不透明、これが中東地域研究の出発点である。

テキスト

- ・立山良司編『中東』(第2版)自由国民社、1998年。
- ・白杵陽著『中東和平への道』(世界史リブレット52)山川出版社、1999年。
- ・高橋和夫著『アメリカとパレスチナ問題 - アフガニスタンの影で -』(角川 one テーマ 21 C 32)角川書店、2001年12月。

参考文献

- ・『イミダス』(2002年版)集英社。
- ・『現代用語の基礎知識』(2002年版)自由国民社。
- ・中岡三益著『アメリカと中東 - 冷戦期の中東国際政治史 -』中東調査会、1998年。
- ・木村靖二著『二つの世界大戦』(世界史リブレット47)山川出版社、1999年。
- ・牟田口義郎著『アラビアのロレンスを求めて - アラブ・イスラエル紛争前夜を行く -』(中公新書1499)中央公論新社、1999年。
- ・高橋和夫著『アラブとイスラエル - パレスチナ問題の構図 -』(講談社現代新書1085)講談社、2001年。

- ・藤原和彦著『イスラム歌劇原理主義 - なぜテロに走るのか -』(中公新書1612)中央公論新社、2001年10月。
- ・その都度紹介する。

評価方法

- ・出席点と学年末のレポートもしくは筆記試験による。

受講者への要望

- ・国際ニュースの把握に努めてほしい。
- ・少人数の場合はゼミナール形式で行なう。
- ・講義資料は出席者へのみ配布する。
- ・必要に応じてビデオ教材使用する。

年間授業計画

1. 中東との出会い
2. 中東概観、中東地域概念
3. 中東の民族と宗教(1)
4. 中東の民族と宗教(2)
5. 中東の民族と宗教(3)
6. 日本の中東外交史
7. 米同時多発テロ事件とアフガニスタン
8. イスラーム原理主義
9. 近代中東とアラブ民族主義
10. オスマン帝国の興亡
11. トルコの内外情勢
12. ベルシア湾岸諸国
13. イラン(1) - 近代イランの成立 -
14. イラン(2) - イラン・イラク戦争 -
15. パレスティナ問題(1) - ツォオニズムの展開
16. パレスティナ問題(2) - 英委任統治の開始
17. パレスティナ問題(3) - イスラエル建国とパレスティナ民族主義
18. パレスティナ問題(4) - 中東戦争
19. パレスティナ問題(5) - パレスティナ暫定自治と今後の課題
20. 国家・民族・アイデンティティ
21. 中東の石油と経済
22. ポスト冷戦期の中東と世界
23. 日本の中東政策

科目名	地域経済論 i (ラテンアメリカ)
担当者	今井圭子

講義の目標

ラテンアメリカはアジア、アフリカとともに発展途上地域に加えられ、政治経済社会の諸側面において様々な低開発の問題を抱えている。この地域は19世紀前半に独立期を迎えたが、それに先立つ3世紀余りの長期にわたって植民地支配を受け、その間に形成された政治経済社会構造の遺制が、今日この地域の発展を阻害する重大な要因の一つになっている。本講義ではラテンアメリカの政治経済と社会について、まずその歴史的変遷過程を辿り、同地域をめぐる国際関係を考察し、さらに現在同地域が抱える主要な政治経済社会問題について考える。

講義概要

ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在同地域が抱えている主要な政治経済社会問題を分析し、その根源を探る。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本と同地域との歴史的関係を辿りながら今後の両者の関係のあり方について考える。授業は講義形成、ディスカッション、ビデオ放映、スライド映写などの方法を使って進めていく。

テキスト

国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1998年

参考文献

- ・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年
- ・水野一編『日本とラテンアメリカの関係』上智大学イベロアメリカ研究所 1990年
- ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究 - 鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所 1985年
- ・今井圭子・堀坂浩太郎・斎藤淳『民主化と経済発展 - ラテンアメリカ ABC 三国の経験』上智大学国際関係研究所 1997年
- ・グスタボ・アンドラーデ/堀坂浩太郎編『変動す

るラテンアメリカ社会』彩流社 1999年・国本伊代編『ラテンアメリカ 新しい社会と女性』新評論 2000年

評価方法

授業中に何回かリアクション・ペーパーを提出してもらおう。

学期末に筆記試験、以上を合わせて評価する。

受講者への要望

授業では多岐にわたる内容をわかり易く講義することをめざすので、受講者は授業に出席し、不明な点、納得できない点はどしどし質問すること。

年間授業計画

1. 序 ラテンアメリカの概観 - ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較の視点について要約した後、ラテンアメリカの自然、住民、文化、宗教について概観する。
2. 序 (つづき)
3. 第1章 ラテンアメリカ経済史 第1節 時期区分 世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ経済史の時期区分について述べる。
4. 第2節 植民地以前の時期 (~15世紀末) コロンブス一行到来前の先住民社会について概観し、アステカ、マヤ、チブチャ、インカの各先住民社会、文明について考察する。
5. 第3節 植民地期 (15世紀末~19世紀初め) ラテンアメリカの植民地化の過程、植民地政策、植民地支配の下での先住民社会の変容について説明する。
6. 第3節 (つづき)
7. 第4節 独立期 (19世紀初め~19世紀半ば) 独立運動高揚の国際的および国内的要因をおさえ、独立運動の思想、担い手、独立闘争の進展過程について説明する。
8. 第4節 (つづき)
9. 第5節 第一次産品輸出経済確立期 (19世紀半ば~1929年) 独立後の国家建設と経済開発をめぐる政策について解説し、第一次産品輸出経済が確立されていく過程を辿る。
10. 第5節 (つづき)
11. 第6節 工業化から地域協力に至る時期 (1929年~現在) 1929年大不況がラテンアメリカの政治経済に与えた影響について考察し、ラテンアメリカ諸国の対応策を論じ、第2次世界大戦後の工業化に言及する。
12. 第6節 (つづき)
13. 第2章 ラテンアメリカ政治経済社会の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済

社会問題を経済成長と所得分配、雇用問題、貧困、経済構造、金融問題、経済開発と政治体制、環境問題、ジェンダー（女性問題）、人種と社会階層、対外関係などにまとめて解説し、その対策について考える。

14. 第2章 （つづき）

15. 第2章 （つづき）

16. 第2章 （つづき）

17. 第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論

ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論（プレビッシュ理論、従属論、構造学派、レギュラシオン学派、新経済自由主義など）をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について論じる。

18. 第3章 （つづき）

19. 第3章 （つづき）

20. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 日本とラ

テンアメリカの関係を、移民、貿易、投資、援助、外交関係に分けて解説し、今後のあり方について考える。

21. 第4章 （つづき）

22. 第4章 （つづき）

23. 第4章 （つづき）

24. まとめ

科目名	地域経済論（アジア）
担当者	森 健

講義の目標

世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることが確認できる場合が多い。この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、この2-30年の間に自由貿易主義と多文化主義社会化の政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策変更を採用するに至った要因を分析する。

講義概要

近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力会議（APEC）の結成を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する国であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、文化、政治・社会体制、経済条件など）から解明する。

テキスト

竹田いさみ、森健（共編）「オーストラリア入門」、東京大学出版会、1998年。および、これを補完するプリント（特に前期）。

参考文献

- ・ジェフリー・ブレイン著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳、「オーストラリア歴史物語」、明石書店、2000年。
- ・関根政美著、「多文化主義社会の到来」、朝日新聞社、2000年。
- ・竹田いさみ著、「物語オーストラリア」、中公新書、中央公論新社、2000年。

評価方法

- 前期：定期試験
- 後期：定期試験

受講者への要望

他の国の経験を知ることで、社会現象を多面的に、相対的に見る眼が養われること（複眼的思考）を期待しています。

前期授業計画

1. ビデオ等を使ったイントロダクション
2. 講義内容の総括的な説明
3. 歴史（1）：囚人労働とステープル産業としての羊毛産業
4. 歴史（2）：流刑制度をめぐる問題
5. 歴史（3）：ゴールド・ラッシュとその影響
6. 歴史（4）：仲間主義、平等主義、綱領なき社会主義
7. 歴史（5）：1860年代から1880年代にかけての長期高度成長
8. 歴史（6）：1890年代の恐慌と連邦結成
9. 歴史（7）：保護貿易主義と中央集権的賃金決定制度
10. 歴史（8）：経済ナショナリズムの形成
11. 文化（1）：エトス、アイデンティティ、アボリジニ
12. 文化（2）：ヒーロー、文学テーマ

後期授業計画

1. 社会（1）：多文化社会化
2. 社会（2）：多文化社会化の悩み（1）
3. 社会（3）：多文化社会化の悩み（2）
4. 社会（4）：労働と社会(1)
5. 社会（5）：労働と社会(2)
6. 政治：政治構造と制度
7. 外交：安全保障（1）
8. 外交：安全保障（2）
9. 経済構造と経済政策(1)
10. 経済構造と経済政策(2)
11. 経済構造と経済政策(3)
12. 日豪経済関係

科目名	地域経済論 iii (中国)
担当者	全 載 旭

講義の目標

今日の世界経済において、東アジアの重みが増え、ますます増している。なかでも、中国の動向は、21世紀の世界経済の新たな秩序の形成を左右する最大のファクターの1つである。中国のWTO加盟は、短期的には、国有企業の倒産、失業の増加など、否定的な影響を国内に及ぼすであろうが、長期的には産業構造の高度化、競争力の強化、市場開放の拡大などによって改革・開放が加速化され、ひいては経済成長を促進するものと思われる。この授業では、東アジア全体に目を配りつつ、中国经济を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な連関をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたいと思う。

講義概要

下記のテキストを用い、東アジアの中での中国经济の歴史、発展可能性などを学ぶ。中国において1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めて行きたい。

必要に応じて新たなテーマについて議論する。

テキスト

渡辺利夫、加藤弘之、白砂堤津耶、文大宇『図説 [第2版] 中国経済』日本評論社、1999年

参考文献

渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、2000年

評価方法

前期：筆記試験を行う。

後期：筆記試験を行う。

受講者への要望

中国の経済システムは通常の資本主義国とは異なるところがあるので、中国経済の状況を実態にそくして理解するためには、テキスト及び参考文献を事前に読んで授業に出席してほしい。

前期授業計画

1. 中国及び中国人
2. 改革・開放以前における中国の計画経済
3. 改革・開放以降における中国経済の発展
4. 人口動態(1) 人口移動のコントロール
5. 人口動態(2) 人口流動化に伴う都市問題
6. 農業発展(1) 農業部門における生産性の向上

7. 農業発展(2) 人民公社の解体
8. 郷鎮企業(1) 社隊企業との違い
9. 郷鎮企業(2) 農村工業化
10. 工業発展(1) 重工業育成政策
11. 工業発展(2) 非国有企業の発展
12. 中国のWTO加盟と東アジアの経済協力

後期授業計画

1. エネルギーと交通・運輸 インフラストラクチャー部門のボトルネック
2. 財政と金融(1) 国家財政の構造
3. 財政と金融(2) 金融改革
4. 地域発展(1) 不均衡成長理論
5. 地域発展(2) 西部大開発戦略
6. 貧困と環境 絶対的貧困層の減少と環境破壊
7. 貿易と直接投資(1) 輸出・輸入構造の変化
8. 貿易と直接投資(2) 直接投資の構造
9. 華南経済圏(1) 台湾
10. 華南経済圏(2) 香港
11. 華南経済圏(3) 中国の広東省とマカオ
12. 21世紀における中国経済の行方

科目名	比較社会論
担当者	井上兼行

講義の目標

文化や民族はそれぞれ独自の社会関係のあり方、それについての認識の仕方をもっている。ここでは私の研究対象であるカリブ海社会と私自身の担う日本社会とを軸に他の社会も取り上げ、比較を通してつづ各社会の特徴を理解しようとする。

講義概要

カリブ海域社会、日本社会、及びその他の社会について、家族、血縁、地域社会、階層といった関係や集団の種々相を取り上げ、比較考察し、それぞれの特徴を考えていけるように講義をし、また、文献を読んでもらえるようにしていきたい。

テキスト

なし。

参考文献

随時紹介する

評価方法

登録者の数による。少数ならレポート、多数なら試験、両方やる場合もある。

受講者への要望

カリブ海域社会について、歴史その他ある程度の知識をもっていることが望ましい。

科目名	地域研究特殊講義 A (森林地域における風土と生活)
担当者	犬 井 正

講義の目標

本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発様態を参考にして、人間と風土との関わりを明らかにしていく。

講義概要

熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を地理的視点から考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境 NGO などのこれまでに果たしてきた役割について考察する。

テキスト

クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』
1994、農林統計協会

参考文献

T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館
四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス

評価方法

定期試験等による。

受講者への要望

継続的に受講すること。

年間授業計画

- 1 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション。
- 2 一次生産者としての森林の重要性。
- 3 世界の森林・日本の森林 - 温量指数と乾燥指数。
- 4 熱帯林地域の自然環境の特質。
- 5 熱帯林の森林としての構造 - 熱帯雨林と季節林。
- 6 マングローブ林の生態。
- 7 熱帯林の動植物と食物連鎖 - 生物学的多様性。
- 8 熱帯雨林の土壌。
- 9 熱帯雨林の生態と環境保全機能。
- 10 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域。
- 11 様々な開発形態と開発速度。
- 12 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作。
- 13 人口爆発と集落再編計画。
- 14 商業的木材生産による森林破壊。
- 15 プランテーション経営と牧畜業。

- 16 ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
- 17 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
- 18 熱帯雨林破壊による気候変化と地球の温暖化。
- 19 熱帯雨林破壊の経済・環境・文化の損失。
- 20 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と森林文化の崩壊。
- 21 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策。
- 22 持続可能な森林利用 - エコツーリズムの試み - 。
- 23 森林の民から学ぶべきこと - NGO の架け橋。
- 24 まとめ 再考：人間と自然のかかわり。

科目名	地域研究特殊講義 A (カリブ海域の民俗と文化)
担当者	井上兼行

講義の目標

私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について概括的な知識を得ると同時にその特質を知る。

講義概要

カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その基礎の上に社会・文化が築かれている。そこでまず歴史をある程度時間をかけて明らかにする。そのあと複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオール語を中心とした、複雑な言語及び言語構成についても言及する。その間、できる限り脈絡に沿ったビデオを見てもらったり、簡単な外国文献を読んでもらったりすることを考えている。

テキスト

なし

参考文献

随時紹介する。

評価方法

登録者の数にもよる。少数ならレポート、多数なら試験、両方やる場合もある。

科目名	地域研究特殊講義 A (英国圏のエスニック・ヒストリー)
担当者	佐藤唯行

講義の目標

英語圏のエスニック・ヒストリー

英国を中心に、その他英領西インド諸島や南アフリカにおける人種関係史を学び、これまで見えてこなかった英国社会の特質を解明する。

講義概要

1 回から 12 回までの講義は下記テキストを使用し
て行う。13 回以後はテキストはありません。尚、17
- 19 回の三回分は講義形式ではなくビデオの合評会
形式で行う。

テキスト

『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年講談社選書
1500 円）

『アメリカ・ユダヤ人の政治力』佐藤唯行（2000
年、PHP 新書 657 円）

評価方法

評価は前後期各 1 回の筆記試験とビデオの感想文
(枚数不問)によって決定する。課題ビデオの選定
は受講者の顔ぶれをみて決める。尚、出席をとるか
とらないかも受講者の人数をみて決めたい。

年間授業計画

- 1.(儀式殺人告発の神話)キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である 1144 年のノーリッジで発生した「聖ウイリアムの殉教」を検証し、中世英国ユダヤ人史を研究する意味を確認する。
- 2.(中世英国のユダヤ人社会)ノルマン征服後、英国に成立したユダヤ人社会の特質を同時代の大陸との比較の中で明らかにする。当時の反ユダヤ主義的筆致の絵画史料も解説する。
- 3.(ユダヤ人と非ユダヤ人の関係史)中世英国の主要な社会集団である諸侯・騎士、教会、都市とユダヤ人との個別の関係を探る。
- 4.(ユダヤ人金融の潜在的機能)中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果してきた事を史料的に解明し、1290 年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。
- 5.(英国ユダヤ人史の中間時代)1290 年の全面的ユダヤ人追放から 1656 年に再入国が許される迄の 366 年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。

6.(千年王国思想とユダヤ人再入国)ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想がクロムウエル政権下の 1656 年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。

7.(17 世紀英国のユダヤ人社会)17 世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。

8.(18 世紀英国のユダヤ人社会)上層、中流上層のユダヤ人の中で 18 世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。

9.(19 世紀英国のユダヤ人社会)ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって 18 世紀末から 19 世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。

10.(世紀転換期のユダヤ人社会)1880 年代から始まる推定 30 万人もの貧しい東欧系ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。

11.(20 世紀前半のユダヤ人社会)両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。

12.(現代英国のユダヤ人社会)ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日の諸問題について検討する。

13.(奴隷貿易とユダヤ人)17-8 世紀における環大西洋地域最大の営利事業にユダヤ人はどうかかわったのか。人口に膾炙した反ユダヤ的神話を論破する。

14.(南アフリカのユダヤ人)南阿最大のビジネス、ダイヤモンド採掘とユダヤ人との関係。アパルトヘイトをめぐる彼等の態度と白人多数派の対応の違いを分析。

15.(在英黒人史その 1)18~19 世紀を中心にアメリカの奴隷制との比較の視座のもとに検討

16.(在英黒人史その 2)20 世紀初めから今日まで、とりわけ黒人暴動とそれを生み出した背景を探る。

17.(映画で学ぶ英国ユダヤ人問題)「炎のランナー」を素材として 1920 年代英国の大学を舞台とするユダヤ人・非ユダヤ人の関係を探る。

- 18 . (映画で学ぶ英国黒人問題) 「 祖国と女王のために 」 を素材として 1980 年代英国における黒人問題を考える。
- 19 . (映画で学ぶアイルランド問題) 「 ナッシング ・ パーソナル 」 を素材として 1970 年代北アイルランドにおけるカトリック系住民とプロテスタント系住民との対立を考える。
- 20 . (在英アイルランド系移民問題その 1)
- 21 . (在英アイルランド系移民問題その 2)
- 22 . (在英アジア系移民問題その 1)
- 23 . (在英アジア系移民問題その 2)
- 24 . (在英アジア系移民問題その 3)

科目名	地域研究特殊講義 A (ラテンアメリカのキリスト教)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

今では有数のキリスト教国となっているラテンアメリカ諸国においては、1950～60年代のポピュリズム（人民主義）政権が国民の大多数を犠牲にする従属的資本主義の形で工業発展を推進したことが、社会的・経済的構造の根本的変革を求める強力な大衆運動を呼び起こすことになり、それが軍事的独裁を招く結果になった。このような社会環境の激変の中でラテンアメリカのキリスト教会内部に沸き起こった刷新を目指す潮流から生まれてきた「解放の神学」の概略を理解することを通じて、キリスト教の新しい一面を知る。

講義概要

はじめに、数回の講義において、16世紀以来のスペインおよびポルトガルによる植民地経営の一環として進められたラテンアメリカ諸国のキリスト教化の過程とその後の推移を概観する。

次いで、下記のテキストを講読する。単に「日本語に訳す」のではなく、著者の意図するところを的確に読みとることをめざす。

後期のみ、週2回の授業となる。

テキスト

Leonardo & Clodovis Boff: *Introducing Liberation Theology*, translated from the Portuguese by Paul Burns, Orbis Books.

担当者が手配する。

参考文献

レオナルド・ボフ、クロドビス・ボフ著（大倉一郎、高橋弘訳）『入門・解放の神学』（新教出版社、新教ブックス）

誤訳・拙訳の多い翻訳だが、やむをえない。

評価方法

未定（履修者の数によって、相談で決める）

学生への要望

必ず準備の予習をして休まず出席し、積極的に参加する人を望む。

年間授業計画

（省略）

科目名	地域研究特殊講義 A (地中海世界の歴史)
担当者	古川 堅治

講義の目標

本講座は「地中海世界の歴史」と銘打ち、新しい21世紀以降の人間の文明の歴史の行く方とその意味を問うべく、これまで大きな役割を果たしてきた地中海地域世界の歴史を総括することを目標とする。これまで地中海地域は古代のエジプト文明やギリシア・ローマ文明の展開、またイスラム文明との出会いの場、また、近代ヨーロッパ文明の一環を荷うものとして人間の歴史にとって大きな役割を果たしてきた。そのような歴史の舞台としての「地中海世界」の意味を考えてみたい。

講義概要

講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画・LDなどもできるだけ使って理解を深めることに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出るのが期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気の小じんまりとしながら進めていく。

テキスト

特に、使用することはない。

参考文献

第一回目の授業の際、参考文献一覧表を配布する。

評価方法

定期レポートと数回の小レポートで評価、テーマ、
✂切日、枚数等については授業中に提示。

受講者への要望

歴史が不得意であったとか、これまで学んだことがなかったという人も関係なく、歴史に興味関心のある人で、その重要性を痛感している人ならだれでも歓迎。

年間授業計画

1. はじめに：地中海世界への視点
2. ~ 3. 古代地中海の多様性と統一化
ギリシア・ヘレニズム世界と東方世界
ローマ支配の拡大と東方・北アフリカ世界
4. ~ 5. 古代帝国の解体と地中海世界の変容
属州ガリアと元首政
ローマ帝国における異教とキリスト教
6. ~ 7. キリスト教世界の巡礼

中世のローマ巡礼

中世のサンチャゴ巡礼と民衆信仰

8. ~ 9. イスラム世界の巡礼

メッカ巡礼とイスラム改革運動

現代モロッコの廟参詣

10. ~ 11. 親族関係と移民

古代ギリシア・ローマの家と親族関係

オスマン朝へのユダヤ教徒移民

12. ~ 13. 人的結合と社会運動

イスラムのスーフィー教団と「多神教」

ギリシア独立戦争と義賊

14. ~ 15. 商業ネットワーク.

ローマ時代の商業と商人のネットワーク

レヴァントのフランス商人

16. ~ 17. 国家と社会経済システム

近代サラエボのムスリム名士と農民

近代アレクサンドリアの憂愁

18. ~ 20. 都市における救貧と福祉

12世紀コンスタンティノーブルの帝国病院

イスラム世界の宗教寄進制度

地中海と疫病

21. おわりに：歴史の場として地中海世界の未来
(その他「映画」が2~3回分入る)

科目名	地域研究特殊講義 A (アラブ文化・芸術)
担当者	藤原和彦

講義の目標

2001年9月11日に発生したアメリカ中核同時多発テロを契機に、西側社会でもイスラム文明、その大要を成すイスラム教への関心が強まった。本講義のテーマである「アラブ文化・芸術」もイスラム教そのもの、あるいはイスラム教の一側面と言ってよい。このため、講義はイスラム教理解を第一義の目標とする。また、日本文化(宗教)との比較という観点からイスラム教の神秘主義「スーフイズム」を考える。

講義概要

毎時限の講義は(1)『Atlas of Islamic World since 1500 (by Francis Robinson)』の講読(2)ビデオによるアラブ社会(アラブ人の生活や美術)の紹介の2部構成とする。また、イスラム教、アラブ社会に関するコピー資料を随時配布する。

テキスト

『Atlas of the Islamic World since 1500 (by Francis Robinson)』。講読部分をカラー・コピーして配布する。

参考文献

岩波文庫版『コーラン』(井筒俊彦訳)上、中、下。
小杉泰『イスラームとは何か』(講談社現代新書)1994。
井筒俊彦『イスラーム文化』(岩波書店)1981。

評価方法

出席と後期のテストによる。

受講者への要望

とくになし。

年間授業計画

1. [イントロダクション] イスラム教の創始者、預言者ムハンマドの生涯などの解説。加えて、イスラム教最高聖地メッカへの大巡礼の様態などをビデオで紹介する。
2. テキスト『Atlas of the Islamic World since 1500 (by Francis Robinson)』の講読。Part One 「Revelation and Muslim History」 The spread of Islam 622 - 1000
3. 同上 The spread of Islam 622 - 1000 続き。
4. 同上 The spread of Islam 622 - 1000 続き。
5. 同上 The spread of Islam 622 - 1000 続き。
6. 同上 The spread of Islam 622 - 1000 続き。
7. 同上 The normad invasions。

8. 同上 The normad invasions 続き。
9. 同上 The normad invasions 続き。
10. 同上 The normad invasions 続き。
11. 同上 The shaping of islamic life : the law
12. 同上 The shaping of islamic life : the law 続き。
13. 同上 The shaping of islamic life : the law 続き。
14. 同上 The shaping of islamic life : the law 続き。
15. 同上 The shaping of islamic life : the law 続き。
16. 同上 The shaping of islamic life : the law 続き。
17. 同上 The shaping of islamic life : mysticism (神秘主義)
18. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
19. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
20. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
21. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
22. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
23. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。
24. 同上 The shaping of islamic life : mysticism 続き。

科目名	地域研究特殊講義 A (東西文化を結ぶもの)
担当者	熊谷 哲也

講義の目標

西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、その歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい。

「東洋」という概念は、「西洋」側の主観が生み出した産物だが、年間を通じてそこに気付いていただくことになる。

講義概要

前期と後期にそれぞれ 4 つのトピックを設定し、ひとつのトピックに 3 回づつかけながら進んでゆく。必要に応じて、背景となる歴史、宗教、文化の説明を加えてゆく。みなさんには、前期と後期の 2 回、どれかひとつのトピックを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。

テキスト

なし。

参考文献

授業で指示する。

評価方法

前期、後期ともレポート

受講者への要望

1 年間を通じて、テーマに関心を持っていただく。
積極性をもとめる。

年間授業計画

(前期トピック)

- A; キリスト教の広がりとアジア世界。
- B; イスラム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。
- C; 十字軍・レコンキスタとその時代。
- D; 2 つの旅行記 (マルコ・ポーロとイブン・バトゥータ) と当時の世界。

(後期トピック)

- E; 大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。
- F; 西アジアにおけるさまざまな近代化。
- G; 帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。
- H; 旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。

科目名	比較文化論特殊講義 A (英国人と日本人の生き方の比較)
担当者	有 吉 広 介

講義の目標

現代人における英国人の生活文化あるいはライフスタイルと、日本人のそれらとを社会学的なアプローチによって比較研究する。

講義概要

まず、階級構造に基礎を置く英国の多様な階級的文化、ライフスタイルを明かにする一方、日本では、階層構造の戦後における変化が日本人のライフスタイルを相対的に標準化してきたが、近年階層分化をすすめる傾向があることを説明する。次に、両国における教育制度がそれぞれの独特な学歴主義を発達させる過程とその意義を問題にする。第 3 に、両社会における家族生活の類似点と相違点を社会構造および文化構造と関連させて考察する。加えて、二つの社会における性役割の問題に級する。

テキスト

プリントを配布する。

参考文献

適時紹介

評価方法

期末に提出してもらったレポートと授業中の研究態度を評価する。

受講者への要望

まず出席して説明をよく聞くこと

年間授業計画

1. 講義の概要の説明
2. 英国社会の近代化・産業化
3. 同
4. 日英の家族構造の比較
5. 同
6. 英国における家族の階級的性格
7. 近年における家族の多様化
8. 日本の近代化と教育構造
9. 同
10. 英国の教育構造
11. 同
12. 社会的・文化的再生産
13. 日本社会の階層構造
14. 同
15. 英国の階級構造の概観
16. 20 世紀における英国の階級構造の変化
17. 同

18. 英国の労働階級のライフスタイルの変化
19. 同
20. 英国のミドルクラスの構造的多様性
21. 英国のミドルクラスのライフスタイル
22. 英国の上流階級の社会構造と文化
23. 補足事項
24. まとめ

科目名	比較文化論特殊講義 A (東西文化比較)
担当者	近 衛 秀 健

講義の目標

東西というのが、今の日本の立場はそのどちらでもない奇妙な存在である。明治時代、彼等の生活を先進と見做し、ひたすらこれに近付きあわよくば追越そうとした結果が現日本である。他の未だ自国の伝統ある文化を捨てかね、西欧様式の取り込みをためらっているアジア諸国と比べ優越感にひたったりする事が文化論ではあるまい。現在われわれは大きなディレンマに立たされている。事実の分析により明日の生活の資となるような材料を見つけようではないか。

講義概要

対象が二つあれば比較できる。"何か"とそれを観察している自分とで二つである。毎日の新聞の記事、過剰なまでの TV 情報に対し、自分が向かいあう。思索により結論がでてくる。千年前の"何か"と現在の自分、一万キロ彼方の"何か"と現在位置にいる自分、何ごととも比較できないものはない。今の日本人は西洋人でも東洋人でもない。乱れとぶ情報に流されず自分の居場所を確保する方法を考えてみよう。

テキスト

随時配布。

参考文献

世に参考にならぬ文献など存在しない。しかし全員がこれを読み、それに依って思索乃至行動するなら蟻の集団と変わらない。質問に応じ、読みたい人、調べたい人にはヒントを与えよう。

評価方法

自分自身の思考能力を問うため、年二回のレポートを課します。又、随時何か書いてもらいます。

受講者への要望

「これは語学習得などの段階的学習ではない。常に諸君は私と向い合い毎時限私と対決する気持ちでいて欲しい。

年間授業計画

1. 毎日の情報や書物の抜粋を材に色々考えるが、内容については時勢の変化に応じるので予測できない。ちなみに 2001 年度の配布した教材を記す。
2. 森首相の発言。
3. 西洋婦人の参政権運動(Suffragette)の歴史
4. 各地に於ける捕虜虐殺について
5. ルイス・フロイスの日欧文化比較より女性の習慣

の違い。食物について。

6. 日本人の姓について。
7. ベンヤミン・複製時代
8. 孫子、老子のマンガえとき
9. 岩松某・最暗黒の東京。職工事情
10. ペリン・鉄砲と日本人
11. 川田順造・文字なき社会
12. 知里真志保・アイヌ民譚集というような具合である。後期もこんなことが続く。でも今期は何が出るかわからない。

科目名	比較文化論特殊講義 A (川柳を訳す)
担当者	I. ノセツティ

講義の目標

外国人に日本を紹介できるようにする。

講義概要

川柳をスペイン語に訳しその背景を説明する。現代日本の世相をスペイン語で説明できるように訓練する。

担当者はチリ人の大学教授で詩人。英語もよくできるので、スペイン語で表現できない部分は英語で補うことが可能。

テキスト

大伴閑人『朝日川柳』(ザイロ社)

評価方法

出席率、授業への参加が重要。レポート。

受講者への要望

英語、スペイン語の双方を使って外国人に日本を理解させてほしい。

年間授業計画

学生のレベルによって進行度は変る。

科目名	国際関係概論
担当者	有賀 貞

講義の目標

- 1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。
- 2 履修者が国際関係史に関連する日本語・英語の基本的語彙を習得できるようにする。
- 3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。

講義概要

前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争の始まりまでを、後期にはそれ以後近年に到るまでを扱う。講義には日本語と英語を併用する。講義の英文概要は前もって配布する。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。

参考文献

参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房) カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂) 入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会) ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版) 細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス) W.R Keylor, *The Twentieth-Century World* (Oxford university Press, 3rd edition)、石井修『国際政治史としての20世紀』(有信堂) など。

評価方法

前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを1回提出する。評価は試験とレポートとを総合して行う。レポートへの配点は40%程度であるから、レポートを提出しないで合格の評価を得ることは事実上不可能である。

受講者への要望

受講者にはかなりの量の英文を読む忍耐と英語学科学生に期待される程度の読解力を持つようになることが期待される。

年間授業計画

(前期)

- 1 . Introduction
- 2 . Characteristics of 19th-Century International Relations
- 3 . Politics of Imperialism around the Turn of the Century
- 4 . The Outbreak of the First World War
- 5 . The Entry of the United States and the Bolshevik

Revolution

- 6 . The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
- 7 . The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
- 8 . The Return of Relative Stability in Europe
- 9 . The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
- 10 . The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
- 11 . The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
- 12 . The Road to Pearl Harbor

(後期)

- 1 . Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
- 2 . The End of the War and the Development of the Cold War
- 3 . Stabilized Europe and Turbulent East Asia
- 4 . Post-WW South and Southeast Asia
- 5 . The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
- 6 . The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
- 7 . Progress in Economic Integration in Western Europe
- 8 . The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
- 9 . The Fourth Middle Eastern War and After
- 10 . The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
- 11 . The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
- 12 . International Relations in the post-Cold War Era

科目名	国際機構論
担当者	松田幹夫

24 . EU (2)

講義の目標

国際組織への法的アプローチ

講義概要

おもな国際組織のみを重点的に説明する。可能な限り"日本との関係"について述べる。講義ノートが大体できているので、計画どおり進行する。

テキスト

なし。

参考文献

桜井雅夫『国際機構法』のほか、適宜指示する。

評価方法

主として前期および後期試験（論述式）で評価を下す。しかし、日常的に地道な努力を払う学生には、なんらかの形で報いるであろう。

受講者への要望

こつこつノートをとるのみ（人数次第では毎回レジュメを配布する予定）。それに集中すれば、私語も居眠りも不可能。

年間授業計画

1. 序論
2. 国際組織の歴史
3. 国際連盟の成立と解散
4. 国際連盟の構造と機能
5. 委任統治
6. PCIJ
7. 国連の成立
8. 国連加盟国
9. 国連の構造と機能（1）
10. 国連の構造と機能（2）
11. 国連の集団安保体制
12. PKO
13. 信託統治と非自治地域
14. ICJ（1）
15. ICJ（2）
16. 世界人権宣言の成立まで
17. 国際人権規約の成立以後
18. 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連
19. NATO
20. 欧州統合への動き
21. 欧州統合の始まり
22. EC
23. EU（1）

科目名	地球環境論（地理学）
担当者	犬井 正

講義の目標

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。

講義概要

まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。

テキスト

山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂

参考文献

久馬一剛著「食糧生産と環境」化学同人

渡部忠世著「農業を考える時代」農山漁村文化協会

評価方法

[前期]基本的に定期試験による。

[後期]基本的に定期試験による。

受講者への要望

地図帳を持参すること。

年間授業計画

1. オリエンテーション

地理学とは、どのような学問か

2. 自然と人間とのかかわり - 環境論、風土論への招待 -

3. 環境の諸要素（1） - 地形環境 -

4. 環境の諸要素（2） - 気候環境 -

5. 環境の諸要素（3） 植生と土壌、環境の諸類型

6. 熱帯地域（1） 自然的特色と伝統的農業

7. 熱帯地域（2） 熱帯アジアの稲作

8. 熱帯地域（3） 熱帯地域の開発

9. 砂漠地域（1） 自然的特色と伝統的経済活動、世界宗教の起源地と砂漠

10. 砂漠地域（2） 石油資源と近代化、砂漠の開発

11. 地中海森林地域（1） 西欧文化の原点

12. 地中海森林地域（2） カリフォルニアの生活様式

13. 温帯草原地域（1） 自然環境と伝統的生活

14. 温帯草原地域（2） 世界の穀倉地帯

15. 温帯混合林地域（1） 東アジアと西ヨーロッパ

16. 温帯混合林地域（2） 経済の中心地としてのヨーロッパと北アメリカ

17. 亜寒帯森林地域、ツンドラ地域と氷雪地域

18. 山地地域

19. 世界の環境問題（1） 人口問題

20. 世界の環境問題（2） 食料問題

21. 世界の環境問題（3） 森林破壊

22. 世界の環境問題（4） 砂漠化

23. 世界の環境問題（5） 地球温暖化と異常気象

24. まとめ 私たちの暮らしと自然環境

科目名	地球環境論（植物学）
担当者	加藤 信重

講義の目標

近年、問題になっている様々な環境問題についての原論文を輪読し、環境問題を理解すること。

講義概要

身近な環境を理解するため、実際の観察調査も行う。日本語や英語の新聞・雑誌等に目を通す。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう

テキスト

使用しない。

参考文献

講義中に必要に応じてコピー配布をする。

評価方法

出席回数、通常のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。

受講者への要望

生物学 A、B、自然科学特講の既習者のための科目である。読書することが苦でない学生に限る。

年間授業計画

1. 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらおう。
2. Nature Watching 1 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
3. 世界の環境問題 1 The Crisis of the Earth （輪読する）
4. 世界の環境問題 2 The Crisis of the Earth （輪読する）
5. Nature Watching 2 草加市内を歩く
6. Nature Watching 3 草加市内を歩く
7. 日本の環境問題 1 Zero Population Growth（輪読する）
8. トピックス 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
9. 日本の環境問題 2 Minamata Disease （輪読する）
10. 日本の環境問題 3 Minamata Disease （輪読する）
11. Nature Watching 4 草加市内を歩く
12. Nature Watching 5 草加市内を歩く
13. トピックス 新聞・雑誌記事を読む

14. トピックス の続き、レポート提出
15. 世界の環境問題 3 Silent Spring （輪読する）
16. 世界の環境問題 4 Silent Spring （輪読する）
17. 世界の環境問題 5 Since Silent Spring （輪読する）
18. 世界の環境問題 6 Since Silent Spring （輪読する）
19. Nature Watching 6 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
20. Nature Watching 7 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
21. CITES 英文・和文の条文を比較する
22. CITES 英文・和文の条文を比較する
23. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する
24. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する

科目名	地球環境論（太陽系）
担当者	福井尚生

講義の目標

太陽系は一つの星雲から誕生しました。我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。地球上では、諸環境のお蔭で生物が進化し我々人類まで辿り着く事が可能でした。人類が進化の目的なのか結果なのか、意見が分かれるところですが、人類が諸自然環境のお蔭で存在していることは確かです。では何故人類までの進化が可能だったのでしょうか？他の惑星は何故第2、第3の地球にならなかったのでしょうか？太陽系の実状を知れば、少しはその訳が見えてくるかも知れません。

本講義の目標は、このお蔭の内容を知り、率先して地球を愛おしみ慈しむ意識の向上にあります。

講義概要

地球環境問題概観

自然環境とは

天体としての地球

太陽系の仲間達

太陽系の起源

地球環境破壊（？）天文編

テキスト

プリント、視聴覚教材

参考文献

必要に応じて随時紹介します。

評価方法

授業の際に配布する用紙を使い、授業内容に関する課題等をその都度解答・提出してもらいます。レポート提出も考えています。

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。

科目名	都市・地域計画論
担当者	鈴木 隆

講義の目標

人間の生活の場である都市および地域の現象ならびに計画あるいは政策に関する理論や方法について学び、さらに、比較論的な視点も踏まえて日本およびヨーロッパにおける都市および地域の状況と政策について知る。それらを通して、都市や地域に対する意識を高め、かつ、ヨーロッパの社会や文化についての理解を深める。

講義概要

都市および地域に関する多様な視点からの問題を提起し、それに関する研究や議論などを具体的に紹介しながら、問題について考えてゆく。一つの主題についての講義はおよそ2~3回の授業で完結するようにしたい。

テキスト

なし

参考文献

講義中に適宜、紹介する。

評価方法

試験またはレポートを主たる判断材料とし、出席も考慮する。

受講者への要望

都市や地域の問題に興味をもって臨んで欲しい。

年間授業計画

1. 都市の概念。
- 2.~3. 団体としての都市。
- 4.~6. 都市および地域と人口。
7. 小括。
- 8.~9. 都市の構造
- 10.~11. 地域の構造。
- 12.~13. 土地の価値。
14. 小括。
- 15.~16. 空間のイメージ。
- 17.~18. 都市と商業。
- 19.~20. 都市の計画制度。
- 21.~23. ヨーロッパの都市・地域政策。
24. まとめ。

なお、以上の年間計画には多少の変更がありうる。

科目名	国際経済論
担当者	千代浦 昌 道

講義の目標

経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば、健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。

講義概要

前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

総務庁統計局編『2002 世界の統計』(大蔵省印刷局、2001)

西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学(新版)』(有斐閣、1997)

E. F. シューマッハー『スモールイズビューティフル』(講談社、1986)

M. トダロ『M. トダロの開発経済学』(国際協力出版会、1997)

アジア経済研究所 朽木昭文・野上裕生・山形辰史編『テキストブック開発経済学』(有斐閣、1997)

TODARO, Michael P., "Economic Development; 7th edition", Addison Wesley Longman, Inc. 2000.

評価方法

前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。

受講者への要望

新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画

1. 経済開発論の基礎的概念(経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度)
2. 発展途上国の基本問題(発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存)
3. 発展の非経済的側面(経済発展の政治的側面、経済発展の社会的・文化的要因、発展の社会学的把握)

握)

4. 発展の非経済的側面(家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展)
5. 発展の非経済的側面(開発と女性の役割、発展途上国の環境問題)
6. 先進工業国経済発展の教訓(先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化)
7. 先進工業国経済発展の教訓(ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化)
8. 人口と経済開発(人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策)
9. 雇用と失業(発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用)
10. 教育と発展(教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困)
11. 教育と発展(教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発)
12. 都市と農村(発展途上国の都市と農村、農村都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門)
13. 経済発展のモデル(古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド=ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説)
14. 経済発展のモデル(新古典派の成長モデル、チエネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ=シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整)
15. 農業と開発(農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発)
16. 工業化と開発戦略(均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果)
17. 貿易と発展(絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出促進工業化)
18. 貿易と発展(南北問題とプレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序)
19. 貿易と発展(自由貿易と NIES の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展)
20. 多国籍企業と発展途上国(直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国籍企業)
21. 国際収支と債務問題(国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態)
22. 発展途上国債務問題への国際的対応(世銀・IMF)

の融資、債務の株式化、債務 = 環境スワップ)

23. 国際援助と経済開発 (途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展)
24. 国際援助と経済開発 (草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助)

科目名	国際政治論
担当者	星野昭吉

講義の目標

国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存・生活は国際政治の在り方に大きく依存している。人類が直面しているさまざまな具体的問題、すなわち、核拡散問題はじめ、軍拡競争、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の増大、人口・食糧問題、資源・エネルギー問題、人権抑圧、貧困、餓死、社会的不正義などの地球的規模の問題群を検討する。この巨大で、複雑で、流動的で、不確実な国際政治の危機構造の本質、その特徴、その変容、その打破などを解明する。その上で、国際政治の見方・在り方・考え方を提示し、国際政治における我々の存在意義を明らかにする。

講義概要

今日の国際政治が一体どのような段階にあり、どのような問題を抱えているのか、国際政治が我々の日常生活とどのような関連性をもっているのかを説明しながら、国際政治学の課題を提示する。国際政治の構造的変動としての冷戦崩壊過程とその意義を問いながら、国際政治の新しい枠組みの構造を具体的に見ていく必要がある。そうした問題意識に立って、一方の国際政治（世界政治）を構成する主体（主権国家、国民社会、脱国家主体など）と、他方のそれら主体間で構成される国家間関係システム（国際システム）と脱国家間システムからなるグローバル・システム、という二つの視点から国際政治の本質に迫っていく。

テキスト

・星野昭吉『世界政治における行動主体と構造』アジヤ書房、2001年。

参考文献

・衛藤瀧吉ほか『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。

・初瀬龍平『国際政治学 - 理論の射程 - 』同文館、1993年。

・星野・臼井編『世界政治学』三嶺書房、1999年

評価方法

前期のレポート（書評）、後期のテスト、出欠状況を総合して評価する。

受講者への要望

すべてをテキスト通りにやるのでないので、必ずノートをとってほしい。

年間授業計画

1. グローバル政治の構造と特徴
2. 国際政治学の基本的課題
3. 国際政治の構造的変動 - 冷戦構造の崩壊過程とその意義 -
4. 国際政治の新しい枠組み - 湾岸危機・戦争と世界秩序 - (1)
5. 国際政治の新しい枠組み - 湾岸危機・戦争と世界秩序 - (2)
6. 国際政治の新しい枠組み - ソ連邦の解体とペレストロイカ - (1)
7. 国際政治の新しい枠組み - ソ連邦の解体とペレストロイカ - (2)
8. 国際政治学の発展過程 (1)
9. 国際政治学の発展過程 (2)
10. 国際政治の「主体と構造」の枠組み
11. 国際政治の主体としての主権国家 (1)
12. 国際政治の主体としての主権国家 (2)
13. 国家と民族・文化 (1)
14. 国家と民族・文化 (2)
15. 国家と経済社会 (1)
16. 国家と経済社会 (2)
17. 国家と市民[国民] (1)
18. 国家と市民[国民] (2)
19. 国際政治における脱国家主体 (1)
20. 国際政治における脱国家主体 (2)
21. 国家間関係 (国際システム) の構造 (1)
22. 国家間関係 (国際システム) の構造 (2)
23. 脱国家間関係システム
24. 主体と構造のリンケージ - 構造化理論 -

科目名	国際交流研究特殊講義 A (キリスト教と日本文化)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

日本におけるキリスト教の教派数は、世界のどの国にも類例を見ないほどではないか。しかし、キリスト教信徒の総数は全人口の僅か 1.6%弱で、決して多いとは言えない。それにもかかわらず、日本文化の中に定着したキリスト教的要素は案外に多い。そこで、日本がキリスト教とどのように関わったかを歴史的に跡づけることによって、キリスト教が日本文化にどのような影響を及ぼしたかを見ようとする。

講義概要

切支丹時代から現代に至るまで、キリスト教諸教派が日本への宣教活動をどのように展開し、日本社会がそれにどのように対応したかを歴史的に考察する。

週 2 回の授業で前期完結。

テキスト

使用しない。代わりに、講義概要のプリントを配布する。

参考文献

必要に応じて提示する。

評価方法

履修者数によるので未定。

講者への要望

特に予備知識を要求しないが、旺盛な知的好奇心を期待する。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを心がけてもらいたい。

年間授業計画

1. 序説 1 日本におけるキリスト教諸教派及びキリスト教徒数
- 序説 2 日本文化の中に定着したキリスト教的要素
2. 第 1 章 切支丹の宣教と隆盛(室町時代～織田信長)
 - §1 フランシスコ・デ・シャビエルの渡来
3. §2 宣教活動の進展
4. §3 畿内における宣教と織田信長の保護
5. §4 南蛮寺と切支丹文化
6. §5 布教体制の確立
 - §6 信長政権のもとでの切支丹
7. 第 2 章 禁教と弾圧の時代(豊臣秀吉～徳川時代)
 - §1 豊臣秀吉と切支丹(1)
8. §2 豊臣秀吉と切支丹(2)

9. §3 徳川家康・秀忠と切支丹(1)
10. §4 徳川家康・秀忠と切支丹(2)
11. §5 徳川家光と切支丹 - 鎖国
12. §6 鎖国体制下の切支丹
13. 第 3 章 日本宣教の再開
 - §1 開国と宣教の再開
14. §2 明治維新政府と切支丹
15. §3 禁教高札の撤去
16. 第 4 章 「文明開化」とキリスト教(明治期)
 - §1 プロテスタント諸教派の進出
17. §2 学校教育とキリスト教
18. §3 社会福祉事業とキリスト教
19. §4 有力なキリスト者群像
20. §5 無教会主義グループ
21. 第 5 章 苦難の時代(大正～昭和前期)
 - §1 国粋主義と「外来宗教」に対する反目
 - §2 統制 - 「国策」への協力の要求
22. §3 「日本基督教団」の形成
 - §4 抵抗諸教派に対する弾圧
23. 第 6 章 復活と再発展の時代(昭和後期)
 - §1 外来宣教師による活発な宣教の再開
 - §2 各界におけるキリスト者の活躍
24. §3 第二ヴァティカン公会議とエキュメニズム

科目名	卒業論文
担当者	飯島 一彦

講義の目標

日本文学・日本文化に関わる卒業論文を受け付け、指導する。使用言語は日本語（ただし英文・中文もしくは西文の訳文あるいは梗概を添付すること）。

400字詰め原稿用紙にて50枚以上の論文の成稿を求める。ワープロ使用可（その際はデータ添付）。

きちんとした体裁を持った、基礎作業を怠らない、基本に忠実な論文の作成を求めるので、当然指導は厳しい。

必ずしも指導当初の基礎力の充実を条件として求めるものではないが、読書力・文章力などの向上は必須として求められるので覚悟して指導を受けること。

講義概要

年度当初には卒業論文の具体的なテーマを携えてくること。その時点で決定できないものの指導はしない。

毎週一週間の成果の報告を求める。その都度、基礎的な方法（資料検索の方法・引用の方法・論理の使い方・発想の鍛え方・文章表現など）の指導をする。

論文を書こうとすることは、「考える」ための最高の訓練である。従って、「考える」ために論文をどう作り上げていくかという観点からの指導が中心になる。そのための読書・フィールドワーク・アンケート・史料の解読・資料の分析・PCなどの様々な方法を用いる好奇心と貪欲さをもってほしい。

テキスト

なし

参考文献

テーマにあわせて指示する。

評価方法

年間を通じて、卒業論文のでき如何で評価する。

年間授業計画

1. ガイダンス、卒業論文テーマ申告
2. 以下、毎時間各人の報告と質疑応答。各人のテーマに沿った個別的な指導。

科目名	卒業論文
担当者	小島幸枝

講義の目標

21世紀の国際社会において活躍しようとする者にとって、日本文化を体得、あるいは豊富な知識を有することは必須の条件であろう。

本講では、キリシタン時代の日本研究の方法と成果を範として、日本文化の一側面を自らの課題として、討議を通して究明することを目標とする。

講義概要

キリシタン時代の日本研究 芸術（音楽、美術、絵画、書など）、文化（思想、宗教、歴史、文学、衣服など）、科学（天文学、建築、医学、言語など）を学び、現代に通じる日本文化を知り、各自の興味、関心に基づいてさらに突めていく態度形成をしていきたい。

テキスト

「キリシタン小百科」(東京堂出版)

参考文献

「大航海時代の日本」全12巻(小学館)

「大航海時代叢書」(岩波書店)

その他に、授業中に適宜指示する。

評価方法

[前期] レポート

[後期] レポート

受講者への要望

「日本文化論」を受講しておくことが望ましい。

年間授業計画

日本文化についてのキリシタン時代の研究成果を紹介する。(4月)

5月よりはテキストの分担講読と質疑応答を通して、自らのテーマをきめていく。

以後、各自の研究発表形式ですすめる。

科目名	卒業論文
担当者	下川 浩

講義の目標

情報とコミュニケーションにかかわる問題を論じることができるようにする。

講義概要

論文執筆希望者とテーマ・手順などを相談しつつ進める。

テキスト

『大久保忠利著作選集』（三省堂）を貸す。

参考文献

下川浩『現代日本語構文法』（三省堂）を貸す。

評価方法

相談

受講者への要望

問題を発見し、自ら解決する主体的な活動を要する。

年間授業計画

1. 学生個々人との相談で構成していく。

以下同様

科目名	卒業論文
担当者	城田 俊

講義の目標

1. 自己のテーマに関連する先行論文著書を知り、その内容を把握し、要約をつくる。
2. 学説史の中で自分の研究・調査がいかなる個所におかれるかを把握する。
3. 要約に関連し、自己の見解を形成する。
4. それを達意、簡潔な文章で表現する。
5. 他者の批判を知り、受け入れるべきものを受け入れる。
6. 先行研究要約と自己の見解を積み重ね、結論を出す。
7. 全体を整理し、章立てを行い、論文の体裁を整える。
8. 誤字・脱字をチェックし、不明確な表現を取り除き、論文を完成する。

講義概要

卒業論文指導は論文執筆者の主体的活動を支え、補正するためにある。主体的活動がまずなければならない。主体的活動とは何か。テーマに関連しての主要先行論文・著書を読むこと。それを咀嚼し、要約をつくり、それに関連して自己の見解を形成し、整理すること。見解を筋道立てて、文章化すること。この三点にある。これを一年間のスケジュールの中でわりふってはならない。例えば、を前期、を夏期休暇中、を後期に、行うと考えてはならない。毎週毎回それを繰り返すかたちで積み上げ、後期で各断片をまとめあげるといって態度を持さなければならない。指導は基本的に文章添削というかたちで行なわれる。

テキスト

各人、各テーマに沿い、その都度、博捜法を含めて指示する。

参考文献

各人、各テーマに沿い、その都度、指示する。

評価方法

[前期] 断片の提出を含め、指導を受け、それへの反応態度と主体的活動によって評価する。

[後期] 論文によって評価する。

受講者への要望

毎回断片を教室に持参し、その添削を受けるつもりで、論文は常にこまめに書いていくことを要望する。年末に近づいて突然書き出すという態度はいましめ

たい。

年間授業計画

(前期)

1. テーマの確定
2. テーマに沿っての文献の選定と収集
3. 文献講読とその要約方法。先行論文・著書（以下先行研究）の要約の提出（ ）
4. 要約に関連しての自己の見解の形成。見解の文章化。先行研究の要約の提出（ ）
5. 要約に関連しての自己の見解の形成。見解の文章化。先行研究の要約の提出（ ）
6. 論理の筋道の立て方。
7. 文章の作成。添削と討論（ ）
8. 文章の作成。添削と討論（ ）
9. 文章の作成。添削と討論（ ）
10. 文章の作成。添削と討論（ ）
11. 文章の作成。添削と討論（ ）
12. 試案的章立て。段落の形成。見出し・小見出しのつけ方。

(後期)

1. 中間発表 - 質疑応答・批判と討論（ ）
2. 中間発表 - 質疑応答・批判と討論（ ）
3. 中間発表 - 質疑応答・批判と討論（ ）
4. 前半部分（第一稿）の提出。
5. 添削と改変。細部の再検討とその修正（ ）
6. 添削と改変。細部の再検討とその修正（ ）
7. 後半部分（第一稿）の提出。
8. 添削と改変。細部の再検討とその修正（ ）
9. 全体の論理の筋道の検討。結論の再吟味。学説史の整理。
10. 章立て。段落の形成。見出し、小見出しのつけ方。全体の整理。
11. 「参考文献」リストの作製。
12. 提出直前の再読。文章の再吟味。誤字・脱記を含めての最終チェック。

科目名	卒業論文
担当者	高橋正男

講義の目標

2年間の学習成果をもって卒業論文とする。卒業論文
題目は個別面談の上決めてもらう。

講義概要

毎週個別もしくはグループで指導にあたる。

テキスト

なし

参考文献

必要に応じて指示する。

年間授業計画

受講者と相談の上決める。

科目名	卒業論文
担当者	辻 康 吾

講義概要

卒論ゼミは原則として3年度ゼミ、およびその後の自主ゼミで学習してきた課題について論文を完成する。別途配布する卒論ゼミ執筆要綱を熟読し、用紙、注記、用語などに十分注意すること。とくに重要なのは提出期限を厳守すること。1秒でも遅れたら受理しない。なお、十分に審査の上評価するが、卒論の単位を取れぬこともありうるので、卒業予定者は卒業論文の4単位を他の授業で履修しておくこと。なお卒論執筆指導は所定の時間帯以外でも可能な限り行なうので辻に連絡すること。

評価方法

学科が配布する「卒業論文執筆の手引き」参照

科目名	卒業論文
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

スペイン内戦をテーマにする。

テキスト

ジョージ・オーウェル「カタルニア讃歌」

その他

年間授業計画

学生の要望にこたえ相談しながら進める

科目名	卒業論文
担当者	松丸 壽雄

- 21. 個別指導。
- 22. 個別指導。
- 23. 反省会。
- 24. 反省会。

講義の目標

演習にて蓄積した力と知識をもって卒業論文を仕上げることを通して、4年間の大学生活の集大成として研究結果を自力でまとめ上げる。これにより大学とは自分にとって何であるのか、研究とは何かを体得する。学部において最後の思い出となる仕事に力いっぱいぶつかることを経験する。

講義概要

各個人ないしはグループ研究の指導であるために、各個人ないしはグループと個別に接触し卒論の進捗状況を確認しながら、アドバイスを与える。相談時間を決めて個別に面談しながらの指導となる。

テキスト

なし。

参考文献

適宜指示。

評価方法

学科の規定による審査基準に従った卒業論文の審査結果を評価とする。

受講者への要望

途中で諦めないように。相談時間を守ること。

年間授業計画

1. 概要説明。
2. 個別指導。
3. 個別指導。
4. 個別指導。
5. 個別指導。
6. 個別指導。
7. 個別指導。
8. 個別指導。
9. 個別指導。
10. 個別指導。
11. 受講者全員による進捗状況発表。
12. 受講者全員による進捗状況発表。
13. 受講者全員による進捗状況発表。
14. 受講者全員による進捗状況発表。
15. 個別指導。
16. 個別指導。
17. 個別指導。
18. 個別指導。
19. 個別指導。
20. 個別指導。